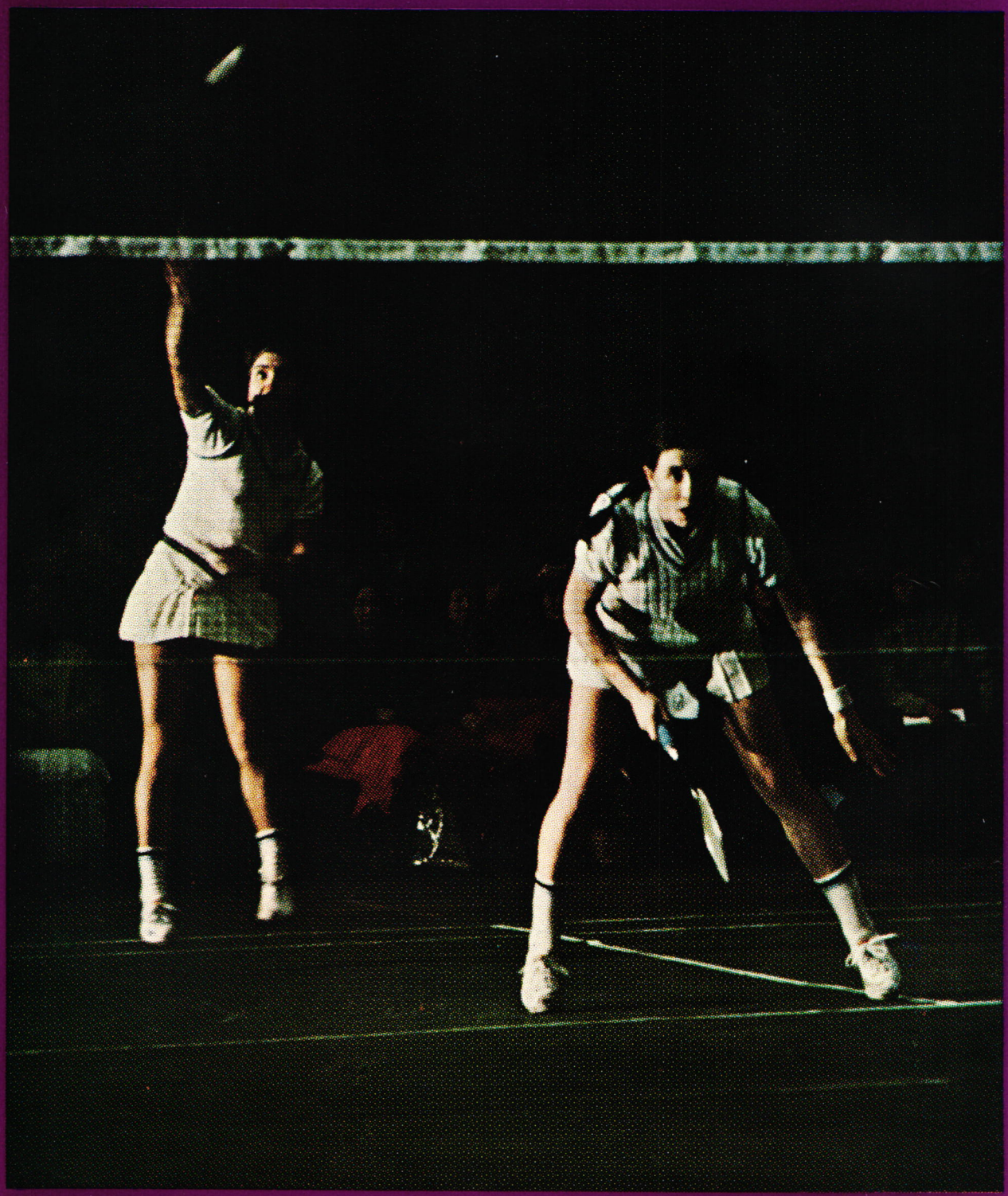
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和47年2月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.30
2
1972



No.6000 FIVE ACE DELUXE



テクニックが冴える

ガット有効面のひろがり

〈バドミントンを科学する〉ヨネヤマのラケットは、ガットの有効面積が、広く設計されている。だから、どこで打っても、シャトルを鋭くとらえる。テクニックが、冴える。狙いに、くるいがない。シャトルとラケットの、一瞬の出逢い。この一瞬を、科学した結論です。ヨネヤマは、カンと経験だけを、頼りにはしません。あくまでも科学的に、探ぐり、割りだして、ラケットを造っているのです。

No.6000ファイブエースデラックス/￥3,500(フレームのみ)

ヨネヤマラケット

今月号のダイジェスト

☆特集・日本×デンマーク女子国際競技会　前回のユ杯（69年6月）いらい、三年ぶりに日本で女子の国際試合が実現した。デンマークは今回のユ杯で日本が最初に当たると予想される相手。試合は大阪・東京・横浜と三回ともに日本が圧勝、本番への自信を強めた。来日した北欧のプレーヤーは、しかし、なかなかの実力。二度目に来日するときは……と誓って帰った。

今号では、これらのシリーズを詳報するとともに、盛り上ったスタンドのムード、異色の生活感覚を持つデンマーク選手たちの人間性――生活と意見――などを多角的にとり上げた。写真グラフも関係各氏のご協力により、幅広く、表情豊か。ごゆっくりお楽しみ下さい。とくに彼女らが、真剣勝負の中にいて明るさを忘れず、ものごとにこだわらず、社交性に富んでいるという点は、われわれ日本人にも大いに参考になるはず。



ビールの飲みすぎで，サイズが合わないわ　来日直後のジョーゲンセン

☆男子ナショナル・チーム合宿　この機関紙は女子のことばかり大きく扱っているのではないか、とヘソをまげる読者、関係者なきにしもあらず、もちろんそんな〝偏向〟はいっさいないが、日ごろの罪ほろぼし？　も兼ねて、今年から始まった男子ナショナル・チームの強化合宿を、4ページの小特集として、紹介してみた。

男子トマス杯の予選開始は今秋。ユ杯、ユ杯と騒ぎたててはかりいたら大変だ。男子にも声援を送ろう。

☆公認指導員制度の確立へ　愛好者を全国にひろめ、さらにいいプレーヤーを育てていくためには、まず教える人がいなくてはならない。しかし、バドミントンに限らず、今日、スポーツの指導者は学校関係者が大部分だ。これだけでは発展がのぞめないことと、教える人の資格をはっきりし、教えられる側が尊敬し、信頼するような指導者をつくっていこう――というわけで、日本協会は今春から第一回の講習会を開き、育成に力こぶを入れることになった。

☆用具アンケートから　みんなは、どんな用具をどのように使っているだろうか。日本協会用具委員会は昨夏、中学と高校の全国大会に参加した選手たちを対象に、アンケートを試みた。結果はおおよそ、予想されたとおりで、シャトルについていえば、「中学は合成、高校勢は水鳥製が多い」し、ラケットはほとんどの選手が2本以上持っていることがわかった。さてみなさんの場合は？

☆その他　読者の広場は海外ニュースをふくめ3ページに。

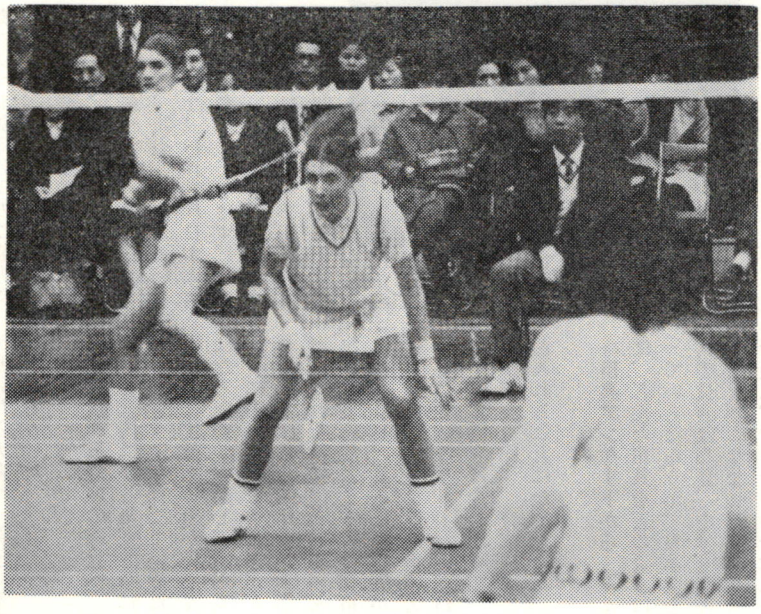
目　次（バドミントン界72年2月号）

〔特集〕第一回国際女子バドミントン競技会……2
・理想的な環境がアダ？　読者新聞　佐藤　諮
・競技は美容のためよ　報知新聞　吉広紀代子
・さわやか、笑顔の中の真剣さ　読売新聞　小林　範夫
・やってよかった国際試合　共同通信　竹市　行男
・紅毛碧眼あらかると「私たちのみたデンマーク勢」
　中山紀子、青木昭二、宮永武司
・選手の手記　高坂薫、湯木博江
・戦評――堺栄一（第一戦、第二戦）毛利清志（第三戦）
・ヘアピン――裏から見た大会こぼれ話
・写真グラフ「三年ぶり美女の来日」……17
　――デンマーク選手たちの表情――
◇世界をめざし〝おれたちもやるぞ〟……12
　――第一回男子ナショナルチーム合宿スタート――
・レポート　渡部紘一／課題と反省　伊藤基記
◇百万人のバドミントン上達法……26
・自信の拡大が勝負強さにつながる　伊藤　基記
・続大型ダブルスの考察――銭谷選手　三須　徳次
◇ユ杯の方もたのみます「日本スポーツ賞」受賞式……29
◇読者のひろば……30
◇公認指導員（日本協会）制度化へ……34
◇中学は合成、高校生は水鳥が多い……36
　――全国の用具アンケート調査から――
◇スポーツ傷害保険に加入しよう……38
　――4月1日から新年度受け付け――

今月号の編集スタッフ
表紙／撮影・松井亮磨／同制作・小浜正道／写真（およびグラフ）／松井亮磨・山田真市・毛利清志・青木昭二・山本洋彦／編集／明本薫・秦浩

前衛戦にスカッと勝つ！

際女子バドミントン競技会





カットは66年ユ杯の記念シール

デンマーク（欧州の雄）顔色なし

日本、若手はつらつ 3戦でわずか失点1

近ずくユ杯の前衛戦、デンマーク招待の〝第1回国際女子競技会〟が一月二十八日から大阪、東京、横浜の三都市で盛大に開かれた（後援・東京12チャンネル。読売新聞、報知新聞）。ちょうど札幌五輪の直前だったが、前回のユ杯戦以来、三年ぶりに海外から美女の来日とあって、どの会場も大変なにぎわい。ファンを魅了した。

競技面では、鍛え抜かれた日本のユ杯勢（相沢・竹中コンビ除く）がさすがに強く、3戦して延べ13試合に12勝1敗という成績を残した。デンマークはユ杯で欧州代表の公算が強いが、日本はさらに自信を深め、三連勝、二度目の王座防衛に力強く前進を続けることになった。

旅の疲れ、初戦さえず

デンマーク コーペンわずかに抵抗

◇**第1戦**（1月28日午後5時半・大阪市中央体育館

日本5（単3―0 複2―0）0デンマーク

▽シングルス

柴山きよ子 2（11―1 11―5）0 リーン・コーペン

中山紀子 2（11―1 11―3）0 アン・ベルクント

秋本八代美 2（11―1 5―11 5―0）0 ウラ・ストランド

▽ダブルス

柴山 高崎 2（15―1 5―15 5―0）0 ストラン・ジョドゲンセン

中山 石崎 2（15―1 5―15 7―5）0 コーペン・ベルクント

日本快調、ユ杯

第1回・国

秋本ぐいぐい マイペース

…評…前夜、三十数時間という長旅のすえ、やっと到着した翌日が試合、この強行スケジュールでは、彼女ら本来の実力を発揮するには、あまりにも条件が悪いように思われた。

練習を見ても、まだ、ふわふわ空を飛んでいるような感じだったが、全然、泣きごとをいわず、よくがんばった。また、対する全日本チームも、若手中心の編成ながら、実力どおりの試合ぶり。完勝したのは立派であった。

柴山×コーペンのシングルス、国際試合が初めてという柴山は、しかも初戦とあって、少々、堅くなっていた。コーペンの高い打点から出るストレートのドロップ、スマッシュに悩まされ、平凡なレシーブ・ミスをおかし、不用意に打つスマッシュをクロスに返される……二ゲームともセッテイングに持ち込まれ、なんとか逃げきった。

しかし、コーペンのヘアピンでのシャトルの回転のさせ方、フォアのネットぎわ上部からクロスに流す、みごとなドライブは、しばしば柴山を窮地に追い込んでいた。

第二シングルス中山×ベルクント戦は、ベルクントが昨年全英で湯木に勝ったときの片鱗（へんりん）も見せずに、中山の貫録の前に完敗。2点先取で気楽になった秋本は、第三試合の対ストランド戦で、おめずおくせずマイペースで走りまくり、フェイントぎみのドロップショットでストランドのミスを誘い楽勝した。

ダブルスの第一試合、柴山、高崎×ストランド・ジョーゲンセン組の対戦は、事前の作戦どおり、日本ペアが相手の中央に攻撃を集中し、持ち前のレシーブ力にモノをいわせて拾いきった。デンマーク組には気合抜けが感じられた。時々は本来の力とワザのうまさを見せたもののドロップ・ショットで何本も決められるようでは、勝機を見出すことはできなかった。

最終試合、中山・石崎×コーペン・ベルクント戦は、急造コンビの中山組に、第1ゲームの中ごろまでコンビの悪さが目立ったが、じょじょに石崎のスマッシュが決まりはじめ、危げなく勝った。

デンマーク組は若手らしく。あらい試合ぶりであったが、鋭角的なスマッシュには破壊力があり、バックハンドの処理が上手になれば、相当な力を発揮するだろうと思われた。

偶然だが、五試合とも第1、第2ゲームの得点が同じという珍らしい対戦だった。

（堺 栄一＝第六回ユ杯日本チームコーチ）

読売新聞 佐藤 諭

デンマークは完敗にも明るく平然と「第一戦は負けると思った」（ストランド）と語った。三十二時間、飛行機にゆられ機内での睡眠は四時間。二十七日夜に来阪、試合までの二十四時間に四時間寝ただけというから〝からだの疲れ、時差〟のダブル・パンチ。

これでは日本の完勝も当然、「東京（三十日）と横浜（二月二日）では、もっとよい試合をお目にかけられると思います」とロをそろえる彼女たちの言葉は本当だろう。

デンマークは一九二〇年からバドミントンをやっており「日本はパワー、わたしたちはテクニカルなプレーで根本的に違うんです」というベテランのジョーゲンセン。

だが、ただ一人の高校生の秋本（四条畷学園）は1㍍54、53㌔と小柄だが、1㍍68のストラ

理想的な環境がアダ？

第1戦から 勝手ちがった北欧の美女

ンドを「背の高い相手なので、打ち合って力強いスマッシュを打ち込まれてはいかんと思い、途中からハイ・クリアすると見せてフェイント気味にドロップ・ショットを使い、これが成功しました。勝って自信というよりホッとしたというのが本心です」といっているが、五試合ともデンマーク選手の言葉とは逆に、からだは小さいがフットワークのよさを生かしてのフェイント、速攻の勝利だった。

デンマーク選手のいいたいことを要約すると「わたしたちの国は五十年の歴史がある。体育館はいつも気温18度にセットされ、館内は完全な無風。シャトルは気温、温度に適合したイギリスのRSLを使ってやる」と決めている。裏を返せば、暖房のない寒い日本の体育館では本当のバドミントンはやれないとも受けとれる。

バドミントン専門につくった体育館で、優雅に育った彼女たち、日本のエース中山は「根本的に考えが違うんです。条件は悪いより、いいにこしたことはありませんけど……」

中山の言葉を借りるまでもなく、ヨーロッパ諸国がこの考えを変えないかぎり〝学校体育〟を通じて発展した日本の王座はゆるがないだろう。

（1月29日付け読売新聞）

中山、貫禄の一方勝ち

デンマーク勢、単複に食い下がり及ばず

◇**第2戦**（1月30日午後2時　東京・代々木第二体育館）

日本3（単2―0　複1―0）0デンマーク

▽シングルス

中山紀子2（11―11―11）1（5―11―8）アン・ベルクント

湯木博江2（4―11―11）1（0―1―1）リーン・コーペン

▽ダブルス

高坂　薫
柴山きよ子2（15―18―17）1（9―15―18）ストランド、ジョーゲンセン

…評…大阪大会で本来の力を発揮出来なかったデンマーク・チームは、なんとか一矢を報いるべく練習時からハッスルしていた。

第一試合、中山×コーペンの対戦は第1ゲーム前半、中山のクリアーが浅く、コーペンのスマッシュ、ドロップが決まって2―5と中山がリードされた。

しかし、その後、クリアーがコーペンのコート奥深く送り込まれるようになると、中山のレシーブがさえはじめ、一方的な試合で終わってしまった。クリアーの大切さを、あらためて教えてくれた試合であった。

第二試合は、昨年、全英で戦って以来の対戦カード、湯木×ベルクントである。第1ゲーム湯木が調子の出ないベルクントを押しまくり簡単に取ったが、第2ゲームになるとベルクントの動きが良くなった。

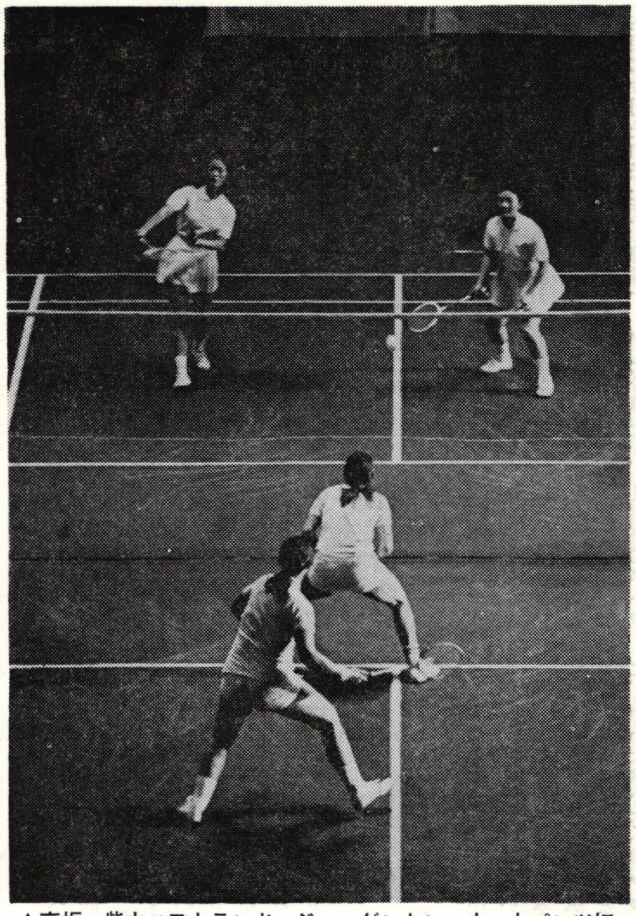
湯木のロング・ハイ・サービスをバック・バウンダリー・ライン上からストレート、クロスと男子選手なみに打ち、特にストレートにねらったスマッシュはその威力を発揮して、試合の主導権を握り8―5とリードした。

湯木もよく粘って8―8に追い上げたが、その後、無造作な凡ミスを重ねて簡単にゲームを落としてしまった。

ここで考えられるのはロング・ハイ・サービスが一杯に飛んでいるにもかかわらず、スマッシュで攻められ、苦戦しているのであるから、なんでショート・サービスを使わなかったかということである。もっと考えて対処すべきであった。

第3ゲームはまた強い面の湯木が出て来て、第1ゲーム同様楽に取って、なんとか面目を保った。

しかし、ベルクントでもコーペンでも、これからスタミナがつき、バックハンドの処理が上手に出来るようになった時は、鋭角的な攻撃力をもっているだけ、強敵になるであろう。



▲高坂・柴山×ストランド・ジョーゲンセン。ホットパンツにご注意あれ

来日した選手たち

☆**カーリン・ジョーゲンセン**　71年デンマーク選手権複1位（パートナーは妹のウラ）ユ杯代表。複のベテランで一児の母。タマさばき、配球、読みなど日本選手が学ぶべき点は多い。相沢・竹中組が、かってデンマーク選手権でこのペアと対戦、苦戦したことがある。主将。

☆**ウラ・ストランド**　71年デンマーク選手権複1位、全英選手権混合複1位、ユ杯代表。やはり一児の母。姉とのコンビが長い。繊細、ちみつなプレーがうまい。

☆**リーン・コーペン**　18歳、欧州以外の海外初遠征。71年デンマーク選手権ジュニア単1位、複1位、混合複2位、欧州選手権ジュニア複1位。ユ杯代表。ベルクントとともにデンマーク最大のホープ。個性的な彫りの深いマスク。均勢のとれたプロポーションで北欧的美人。日本に似たプレーが身上。

☆**アン・ベルクント**　71年デンマーク選手権ジュニア単2位複、混合複1位、71年欧州選手権ジュニア単複1位、全英選手権単2位、ユ杯代表。全英では日本のエース湯木を破り脚光をあびた。18歳。

高坂組、粘りの逆転成功

第三試合のダブルスは、高坂・柴山×ストランド・ジョーゲンセンで行なわれた。第1ゲームは調子の出ないストランドの雑なプレーに助けられ高坂組が簡単に取り、第2ゲームも10―8、13―10、これで勝敗あったかと思われた。

だが高坂組のサービスが浮き、これをブッシュされ、中間へ流されて潰され、ピタリと得点が押えられてしまい、結局15―18でこのゲームを失った。

第3ゲームも第2ゲームと同じような試合経過から、デンマーク組が17―14とマッチポイントを握ったが、日本組は粘りに粘って逆転した。

この苦戦の原因はショート・サービスの悪さ、スマッシュの正確な狙いが、まだまだであり、予見の悪さも大いに加わっている。

しかし、苦戦して勝てばそれだけ得ることが多いはずであり、この一戦で大いに勉強したことと思う。（**堺　栄一**＝第六回ユ杯日本チームコーチ）

競技は美容のためよ

“実力差はお国柄”割り切って　のびのび、デンマーク勢……

吉広　紀代子

開会式で贈られたプレゼントをベンチでさっと開き、出てきた真珠のネックレスに陽気にはしゃいだデンマーク選手。その一人、十八歳のリーン・コーペンさんは、だれに話しかけられても、西洋人形のように、かわいい顔をニコニコさせる。

「だって日本に来られて、とってもうれしいんですもの。ヨーロッパ以外の国ははじめてだし、いままで遠征の招待は全部男子ばかりでひがんでいたの。日本の女子は世界一だから、試合すれば学ぶところも多いし」

とにかく愛想がいい。参加四選手はそろってスポーツ・クラブに所属している。昨年、高校を卒業、現在コペンハーゲンの歯科大一年生のリーンさんをはじめ、旧姓ラスムッセン姉妹でならしたウラ・ストランド夫人、カーリン・ジョーゲンセン夫人も自分の自由時間をさいて練習するという純粋なアマチュアばかり。

「日本の選手が強いのは第一にきびしい練習でしょう。ミスがないし、よく走る。最初は肺活量がよほど違うのかと思ったけど、練習量の違いね。デンマークでは日本のようにはできません。

一週間に三、四日、二時間ぐらい練習をするのが精いっぱい。学校の勉強があるし、本を読んだり友だちに会ったりする自由時間も必要。強くなるためには少ない練習時間で一生けんめいやるより方法がない。

リーンさんは、実力差はお国柄、と割り切る。

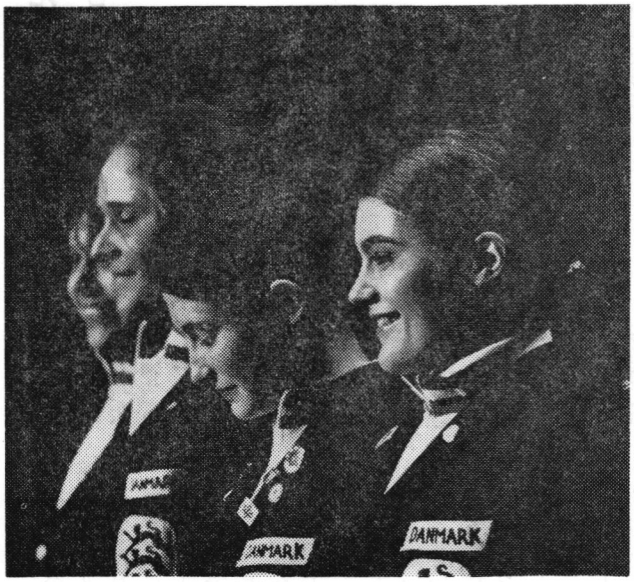
アンさんはこういう「デンマーク人は太りたくないからスポーツをするの。私も動機は同じ。クラブのコーチから〝スジがいい〟とほめられてやる気を出したの。」

昨年ヨーロッパ選手権でジュニアチャンピオンになったとき、こんどは全英優勝をねらおうと思ったわ。将来は体育教師。世界NO1になれば自信をもって生徒にコーチできるでしょ」と笑った。

「独身はまだいいわよ。子供ができると大変よ。夫もスポーツマンで理解してくれるから子供（二歳半）のめんどうみてくれるけど。やっぱり心配だわ。練習は子供を寝かせてからクラブへすっとんでいくの。無理してても競技を続けるのは、やっぱり楽しいからよ」

とグラマーなウラ・ストランド夫人がいうと、姉のカーリンさんが「あのボリュウムでしょ。バドミントンやめるとビアダルになってしまうからよ」とまぜっかえす。

「違うわよ。本当は試合が終わったあとのビールがおいしいからよ」コートのそばで姉妹はとうとう漫才をはじめてしまった。（1月31日付け報知新聞）



▲スポーツは美容にも…？　試合にものびのび



▲コーペン，中山，柴山……呉越同舟でプレーを見つめる

湯木、絶妙のさえ
最後、柴山も波にのる

◇**第3戦**（2月2日午後6時 横浜公園体育館）

日本4（単2―1 複2―0）1デンマーク

▽シングルス

湯木博江 2（11 11―8）0 リーン・コーペン

高坂　薫 2（11 11―5）0 ウラ・ストランド

柴山きよ子 1（6―11 12―9 12―9）2 アン・ベルクント

▽ダブルス

中山紀子 湯木博江 2（15 15―7）0 ジョーゲンセン、ストランド

高坂　薫 柴山きよ子 2（15 15―9 12―10）0 コーペン ベルクルント

…**評**…湯木は東京戦にくらべコントロールがさえていた。第2ゲーム、タコ足が短くなり攻めながらのミスも出て7―7までせったが、後半よくしめてストレート勝ちした。東京大会で多用したバック・ハンドを少なくし、フォアでまわりこんだことが、得意のバックハンドをより有効なものにしていた。

続く高坂は独特のグリップで放つカットで攻めまくり、シングルスを苦手とするストランドを一蹴した。高坂にとっては大きな自信となりそれが後のダブルスにプラスした。

柴山は第1戦以来いささか不調。攻守とも中途はんぱだった。とくにオーバーヘッドからのフライトの変化が甘く、対するベルクントは打つと見せて落し、落すと見せてはクリアするなど、たくみな配合。

しかも振りまわしておいて要所で放つスマッシュは、しばしば柴山を棒立ちにさせるすばらしさだった。第3ゲーム、柴山は相手を後方に追いこむことを忘れ、甘いドロップを連発したため、ベルクント得意の高い打点からのネットプレーに先手をとられ惨敗した。

第一複は日本がアップ不足で立ち上がりが悪く9―6リードされたが、調子を戻した日本は以後9点連取、逆転して第2ゲームも乗り切った。ジョーゲンセン組は力強いスマッシュ、ダッシュの速さが身上だったが、中山・湯木の機敏な動きに一度攻め手を封じられると、しりつぼみだった。

最後の複は高坂が東京大会とは人が変わったように速い動きと配球、サービスも安定してみごとな前衛のさばき。これに助けられ柴山もペースに乗った。第2ゲーム6―1と先行したのがせいいっぱい。以後、日本が14点を奪う間、点を追加しただけだった。

× × ×

大会はユ杯へのムードづくり選手強化の二大目標を達成して終了した。本番での日本の相手は最初が欧州代表。その点、今度の対戦は願ってもないチャンスであり、オーダー等、作戦面もそれなりに考慮した。

しかし、なによりも収穫だったのは、日本が12勝1敗の星を残し、とくに国際経験不十分の若手が実力を発揮するなかで自信をつけたことである。期待の相沢・竹中選手は脚の故障調整段階であり、慎重を期し、ベン

さわやか、笑顔の中の真剣さ

デンマークからやってきた四人の女子プレーヤーは、わが国のバドミントン界、いやスポーツ界全体からみても、いろいろな意味で、かわった存在だった。

まず最初に驚いたことは、彼女たちが来日メンバーを選ぶために、わざわざ国内予選をやったということだ。世界選手権なみの大分ちがうようである。

第二に〝初めての遠征〟にもかかわらず、彼女たちは、きわめてリラックスして、日本にとっては「もてなしがいのある」客だった。

羽田について、大阪行の国内線を待つ間、出迎えた協会役員とともにビールを飲み、愛用のタバコを役員たちにふるまった。各会場で贈られたプレゼントは、まるでダイヤらいざしらず、たんに一団を招待訪問するのに〝選考会〟まで開くという気の入れ方。「デンマークで女子のスポーツ・チームが外国から招待されて遠征するのは初めてのこと」（ジョーゲンセンの話）なのだそうだから当然かもしれないが、従来の実績だけで人選し「同じ顔ぶればかりヨーロッパ遠征している」（ストランドの話）日本とは大分ちがうようである。

モンドでももらったようにうれしそうな顔で受けとり、試合中だというのに開いてみては「ワンダフル！」と喜んでみせる。

試合の方は、実力差があって日本の完勝だったが、最終戦でベルクントが柴山を破ったときは、チーム全体がとびあがって喜んでいた。スポーツを教育の一環として身につけ、コーチのきびしい目の中でプレーする日本の選手とは、まったく異質のムードがあった。「楽しみのためにスポーツをやる」という最も素朴な〝動機〟を彼女たちは忠実に守っている。

帰国する日になって、彼女たちは、デンマークへ持ち帰るおみやげの包みが、各会場でプレゼントされたのを含め、合計四十個を越えてしまったのに驚き、協会は航空会社にオーバー・ウェートの手続きをとるのに苦労するひと幕があった。この四十個を越すおみやげの包みが、彼女たちが日本で受けた印象を象徴しているように思えてならない。

「日本ていいところよ。ファンのマナーもヨーロッパなみね」彼女たちは、ヨーロッパ各地の試合場で日本の印象を吹聴するに違いない。

読売新聞　小林範夫

クリアの重要性を再確認

高坂薫

★大阪大会　観衆の一人として体育館の中へはいった。みんなのデンマーク選手に対する興味と期待の目と同じものを私も感じた。開会式からデンマーク選手の一挙一動に注目した。こチで勉強してもらった。

負けたとはいえ、一戦ごと調子をあげたデンマークの、速い鋭角スマッシュ、強打と見せてネット伝いに落ち込むドロップとドリブンクリアの使い分けはすばらしいものだった。さらに予見のよさが生む高い打点からの巧妙なネットプレー、ダブルスでのダッシュ力、スマッシュの捌きなども忘れられない。

これに対し、日本はスタミナ、フットワーク、コントロール、ダブルスのコンビネーションで相手をしのいでいた。大会の成功に尽力された関係者の皆様、第1戦で突破口をつくった大阪佐藤監督、期間中、練習等で協力いただいた二階堂高・今井先生、チームの堺コーチ、山本マネジャーに感謝するとともに、本番までの暖いご支援をお願い申し上げるしだいです。（**毛利清志**＝日本ユ杯チーム監督）

の人達がユ杯メンバーなのだなと思い、しっかり頭の中へ入れるつもりで、プログラムと照らし合わせた。

プレーが始まった。顔と名前そしてプレーをはやく結びつけなければ……スコアをつけながらじっくりと観戦した。大胆なフォームに、それを利用した繊細なラケットワーク。体型を生かしたみごとなプレーに感心した。

★東京大会　キャリング・バッグを持っている手に思わず力がはいってしまう。今回は観衆ではなく当事者の一人として参加する。早めに会場にはいるとコートを整備する人々が忙しそうに動いている。いまはこの人達の戦場。そのあとは私達の戦場になる。

試合開始。コートサイドにいると、前回と違ってプレーヤーの荒々しい息づかいがしみ込んできた。相手のサーブ・レシーブのポジションが、ずいぶん、うしろである。なんの抵抗もなくサーブを出した。ラリー中もホーム・ポジションがうしろ寄りになっている。したがって圧迫感もそれほど受けなかった。

試合の後半になり、アッと思ったら、相手の二人がネットのすぐ前に迫っている。いつからこんな状況になったのかしら、これが試合運びなんだな、と勉強させられた。

★横浜大会　シングルスではスタミナ負けが一番恐ろしい。ハイクリアで打ち負かされたらもう終りだ。1ゲーム目はとにかく相手をうしろへ動かしてみたが、私が打つタマより正確で力強い返球。やはりシングルスはクリアが最も大切であるということを再確認させられた。しかし腰の回転の悪さが目立った。

ダブルスの対戦相手はむこうの相手ペア。チャンスをじっくりとねらい、それをのがさない。強烈なスマッシュがネットからすべり込んできた。スマッシュを決めたあとの、彼女らの明るい微笑が、なんともいえずすがすがしく見えた。

悲壮感から脱け出そう

湯木博江

ヨーロッパの選手を日本へ初めて迎えての競技大会。どのような大会になるのだろうかと選手として、また一般愛好者の一人としての興味をもっていました。

しかし心配もすることなく競技会としては予想をはるかに上回る大会になったと喜んでいます。私達の遠征を考えても、これほど歓待してもらえる国はないと思います。

ユ杯前の試合で外国選手と初めての試合をした選手には、いい経験となったことでしょう。私にとってもいろんな点でプラスになったような気がします。

大阪、東京、横浜大会を通して気のついたことは観客の態度が悪いということです。選手のやりやすい状態にし、観客の方も選手になった気持ちでみてもらいたいものです。この点をユ杯までに協会の方々で対策を考えてもらいたいと思います。

あとひとつ、我々選手も試合に際し悲壮感、使命感などにあまり縛られないように、全力を出してプレーできるようになりたいものです。デンマークの選手の、のびのびした姿を見てその点を強く感じました。

ヘアピン

「お金をとって、はたして人が来るか。大きい体育館に二百人ぐらいでは」などという論議すら準備段階でたたかわされた。

だが実際の入りは予想のなんと10倍。小中学生無料（夜間のことで約五百人）が好感を持たれた。東京でも当日売りを求める人波がならび、横浜は札止めになった。

入場料も「千円、五百円、三百円は高すぎる」（大阪）の論議があったが、フタをあけると千円席が一番人気で売り切れ。東京でもやはり3枚残っただけだった。

高くしろ、とはいわないがどんな競技でも「見るなら選手に近い、いい席で」が、現代の風調らしい。

○…ウェアでは、さすがデンマークが〝超えて〟いた。

来日前、プログラム用に先方から送ってきた写真を見ると、はいているのはショート・パンツ。これはつまらない、とあって、羽田空港待ち合い室で直接交渉「スコートを持ってきたのか」「ノー」「日本のファンはスコートを望んでいる。こちらで用意すれば、はくか」「イェース」

ところが、会場で彼女らがはいたものをみると、ショートパンツにあらず、身体の線にフィットした、伸縮自在の、いわば

○…紅毛碧眼の来日とあってさすがによく、ファンが集った。大阪二千、東京有料だけで二千五百、横浜二千。大阪では

デンマーク戦は大会運営、競技内容ともに大成功だった。スケジュールに組まれた三会場はいずれも超満員。やってよかった——というのが、この大会を取材し終えての実感だった。

× × ×

「どこか外国の強豪を日本に呼ぼう」「バレーボールやサッカーなんか〝金髪碧眼〟の選手と盛んに交流して人気をかち取っている。バドミントンも日本選手が〝金髪族〟をたたきのめすのをファンに見せよう。そうすれば、女子が世界一、世界一と声を大にしていわなくても、自然にわかってくれる」

「六月のユ杯防衛戦前哨戦としてやったら」「どうせなら、カワイコちゃんがいいな」——マスコミと協会の、こんな雑談めいたところが企画の出発点だった。

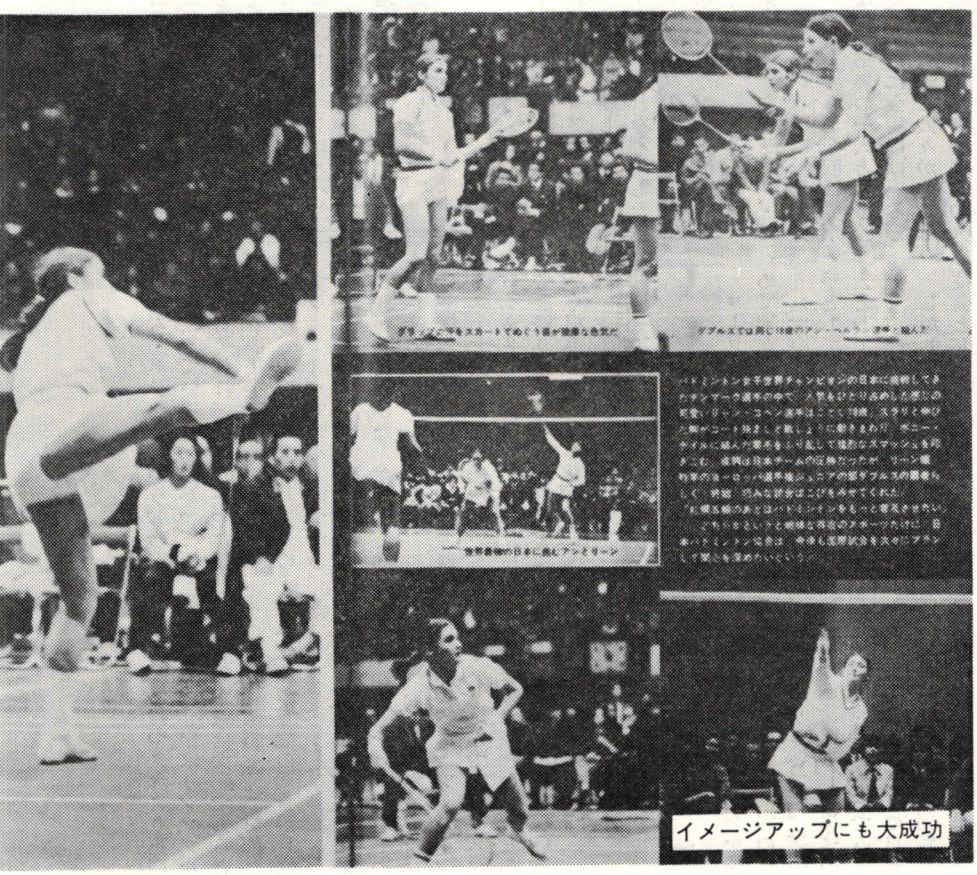
もちろん、心配もあった。先き立つものはおカネ、どのくらいファンを集められるか、目ぼしをつけた選手が来日するか…でも、こうした懸念は、まったく吹っとんだ。

TV中継がOK、選手はどんぴしゃり、カワイコちゃんで強い。それもユ杯の一回戦でぶつかるデンマークだ。日本側の選手もトップコンディション。PRも上々。残された心配は、大会当日の運営だけとなった。

× × ×

第一日の大阪大会。軟庭、バレー、バスケットの日本リーグの好カードで、やっと〝満杯〟になる大阪中央体育館。その足場の悪い会場がビッシリ満員。ただ失敗は、一月二十七日デンマーク勢が来日、羽田から大阪行きに乗りついで、翌日に試合という強行日程だったことだ。

おかげで「日本、足で緩急自在」「中山ら順当勝ち」とデンマークの持ち味が出ないまま終わったのが残念だった。



東京大会でも、彼女らは疲れていた。それでも、ストランド、ジョーゲンセンの両ベテランは「こんな満員の体育館でプレー出来るなんて幸せ。日本がうらやましい」と館内を見回していた。

× × ×

関係者には失礼な話だが、横浜の運営は気になった。選手紹介が日英語の〝二本立て〟に戦績までと、ご念がいっているため、寒い会場はしらけ切っていた。丁寧も時によりけりだ。

もう一つ、三会場ともにファンが〝本格的な大会〟に慣れていない。休憩後、なかなか席につかず、ざわざわして外国選手をいら立たせていた。冷静に試合を見ろ、とボクはいわない。思い切った声援や拍手など、感情を素直に出してもいい。むしろそれが当然だ。だが、それにも節度、限度のあることを忘れないようにしよう。

デンマーク選手団は各会場で贈られたおみやげでホテルがいっぱいになり、母国まで持ち帰れるかどうかと心配顔。それほど、彼女らにとっては、質量ともに暖い日本遠征だった。

× × ×

と同時に「やればできる」と自信をつけた日本。取り越し苦労はやめにして今後もどしどし国際大会をやろう。そして将来は春の全英→カナダ選手権の次に、日本で各種の国際選手権サーキットを終わるまでに育てよう。

今大会を通じて、大会を成功に導びいた協会関係者の努力に実力を出し切った日本選手団、いつも真剣に、楽しくプレーしたデンマーク選手団に、—バドミントン・ファンとして感謝したい。

共同通信
竹市 行男

ホットパンツ。時代はつねに変化しとる。いまやスコートも流行おくれになったようだ。

○…せっかくの催しに広報も大車輪。札幌五輪直前にもかかわらず、各新聞も大きな扱い。中継の東京12チャンネル・テレビでも「バドミントンの放映では視聴率最高」と喜んだ。

雑誌関係へも積極的に売り込み、その中の一つ〝平凡パンチ〟はリーン・コーペンの3ページ写真グラフを組み〝セクシー・スマッシュ〟とハデな見出し。

その雑誌、一行帰国の日に売り出され、コーペンちゃん「すてきなおみやげやわあ」と10冊も買っていった。また、ファッション誌〝メンズ・クラブ〟もユ杯の前に出る号で特集しようと、一行をぴったりマーク。事前に彼女らに説明がなかったためか、一部分〝取材拒否〟をくらってしまった。

○…バッジは外人、サインは日本人——など、札幌五輪でも皮肉られたが、バドミントンの世界でも、これは同じ。横浜大会では、抽選で五十人分、一行のサイン入りプログラムを贈呈したが、もちろんアッというまになくなった。

東京では試合後、会場入り口で、両国選手がユニフォーム姿のまま、ファンのためのサイン会。おどろいたことに?日本の高崎、石崎選手らも、ファンといっしょに、デンマーク勢のサインを「お願いしまあす」金髪嬢ら「試合より疲れるわあ」

やってよかった国際試合





思い出のスキヤキパーティ

大阪協会理事長　青木昭二

ベリ・ハングリー

「ベリ・ハングリー」これが彼女たちの、いわば第一声だった。よほど、おなかがすいていたとみえる。空港から大阪グランド・ホテルに直行、すぐ食堂へ案内した。それからの食欲のすさまじさには、ほとほと感心した。

正直のところ、伊丹の大阪国際空港でデンマーク選手の顔をみるまでは気が気でなかった。和歌山国体のおり、日本協会から話があって三ヵ月、本当に来るかなあ、の気持ちが強かったからだ。

さいわい大阪では、いろんな関係者から幅広い協力を得ることができた。関西デンマーク協会の助言や、国際的に活躍されている大阪協会顧問・嶋久男氏らの助言は非常に役立った。

空港には石渡大阪会長、デンマーク協会の粟飯原(あいはら)氏、日本チーム佐藤監督らが出迎えた。粟飯原氏がデンマーク国旗を持参、ロビーで振ると選手たちは大喜びだった。

翌日、午後零時半からレセプションを持った(大阪協会、関西デンマーク協会共催)。



紅毛碧眼あらかると

◀当日売りを求める人波（大阪の会場）

母国語に感激

大阪外語大・大谷教授のデンマーク語のあいさつは、異国で聞く母国語で、さすがに嬉しそうだった。石渡氏は米国の大学出、瑠東・大阪協会副会長は貿易商社出身、嶋顧問は英独仏ペラペラ、粟飯原氏はデンマークに滞在したこともあるなど国際色豊か。二時間は光のようにすぎた。

このあと選手たちは大阪城を見物に行った。遅れはしまいかと心配だったが、さすがは選手五時には体育館へはいっていた。

体育館は彼女らにとって相当寒かったようだ。セーターを何枚も重ねて着ていた。それなら練習をすればいいと思ったが、試合前はほとんどやらなかった(当日午前約1時間やった)。

焼きイモ立ち食い

日本料理を食べたい、という話なので、夜十時ごろから北の新地の料理屋へ、スキヤキを試しにいった。

途中、街頭で通りがかりの人から焼きイモのプレゼント。空腹だったのか「おお、サンキュー」と気がるに立ち食い。日本人なら一応は警戒するか、もらってもすぐは食べないと思うが欧州人は、くったくがない。

日本側関係者をまじえスキヤキ。タタミがうれしく、しかし坐れず足をのばす。肉がどんどんなくなるが、野菜はたべない。だがハシは上手に使った。ビールも飲み、話もはずむ。私もかたこと英語で。子供や結婚式の写真まで持ってきていた。

私のストロボを借りてカメラもしきりにうつす。ホテルへ送り届けたら十二時ごろだった。

生まれた国に持つ誇り

まず、カーリン。彼女の妹のウラとともに、一児のママなので、同年代の日本の子供たちを見ると、大変、興味を示し、語りかけていた。

一見、おとなしそうに見えるが、シンは強く「東京はよい町か」という私の質問に、おせじにも、ほめてくれることはなく「コペンハーゲンが一番よい町だ」と答えたのには、苦笑させられた。

次にウラ。何年かのつきあいを通して、だれにも好かれる性格とは思っていたが、実際、彼女ほど知らない土地で、知らない人と仲良くなるため積極的な点には、目をみはらされた。

初めてのスキヤキにも平気な顔でパクつく。どんな環境にもすんなりはいることのできる、うらやましい性格であると見受けた。

アン。彼女は少々、神経質である。ときどき、ひたいにシワを寄せてまくし立てるが、短期間の遠征にもかかわらず、カバンいっぱいの教科書を持ち歩いて、体育とフラ

私たちの見たデンマーク勢



徹底した、〝個人主義〟

デンマーク選手係　宮永武司

最　初に競技的な面からお話しします。連中は明らかに、勝ちたいという気で来日しましたね。第一戦は、「スケジュールがハードだから仕方がないが」と東京大会に照準をあてていたようです。

　中山には歯が立たない、とあきらめた気持ちがありましたが本番でも、若い二人は「シングルス、ウラの姉妹はダブルスしかやらない」そうです。「英国にはどうか」聞くと、「われわれが勝つのは当然」と胸をはっていました。日本の試合運営については「コートや審判など、まったく申し分がない。ワンダフル」でした。

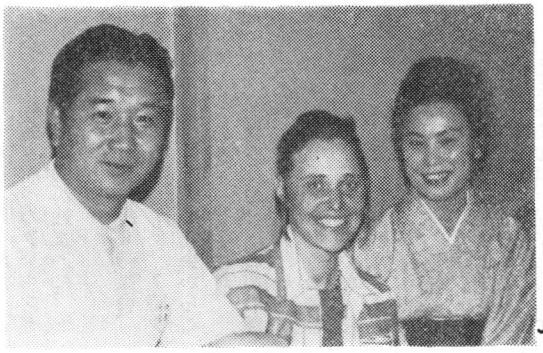
た　だ、シャトルはRSLを使いたかった、といっています。「奥へ思い切って引っぱるタマを打つと、日本製シャトルは出てしまう」というのがいい分。「ダブルスなんか、もっとやれたかも」と残念がりましたが、客観的に見て、私ももっと接戦したと思います。今度はゆだんできませんよ。

環　境の変化に弱いことがしかし、彼女らの弱点でしょうね。大体、若く下の時代から恵まれているからです。デンマークは全体が中産階級で生活にこまっていませんからね。変化に絶対、強いのは東南アジアの選手です。日本も、最近はずいぶん恵まれた練習状態ですからね。そのうちデンマークみたいになるんじゃないか、ちょっと心配です。

連　中は自分の役割りは非常に割り切っており、ダブルスと中山以外のシングルスは、といっていました。

　ユ杯の〝本番〟には、あと二人、来るそうです。ダブルスを組んで、その中の一人はシングルスもやれる選手です。

▲大阪の歓迎レセプションで



◀大阪のスキヤキパーティで料理屋の主人仲居さんとウラ

ンス語の先生になるための勉強をしている。これには頭がさがった。

　リーン。おっとりしていて、まだ、あどけなさが残っているが、手が空いているときには、編み物の本を見ながら、一生懸命にチョッキを編んでいる姿は大いに私を驚かした。

　最後に、全員に共通していることは、彼女たちが「自分たちはデンマーク人である」ということに、大きな誇りを持っていることだった。ともすると卑屈になりやすい日本人にとって、見習うべき点であると思った。

日本チーム主将　中山紀子

ただ、子供がいるベテランの二人が、まだ選手生活を続けられるというのは、うらやましいですね。

国　がらのちがいか、彼女たちは、はっきりした個人主義です。お互い同士、プレーにも生活にも干渉しません。カーリンが32歳、若い二人が18歳。日本なら年長者がすべて面倒みることになるでしょう。しかし。食事も外出もバラバラお茶代も別々。個人主義だからバドミントンへの取り組み方もちがう。強化合宿なんてなくて自分だけが頼りなんです。

日　本での待遇には満足、デンマークの協会は日本のような機能的組織じゃないので、とうらやましがっていました。しかし、日本をエキゾチックには見ていませんね。

　人が多いこと、高速に上るたびにお金を払うことはびっくりしてますがね。ものの値段も安い、子供のおもちゃなんか三分の一だと、人形や自動車をさかんに買いこんでいました。

ひ　とつ忘れたので付け加えます。文革前に二人中国へ行ったそうで「日本より速く、強い」といっています。もうひとつ、実は一行が明治神宮へ参拝しました。対英国戦の〝必勝祈願〟なんです。



▲東北工大での昼食

〔参加者リスト〕
◇**指導者**　伊藤基記（競技力向上委員長）越川啓、板垣隆房、宮永武司、渡部紘一（同委員）◇**選手**　秋山真男（秋山紙工）小島一平、栂野尾昌一（ヨネヤマラケット）鈴木建二、池田信孝（電電東京）本間順次（トヨタ自工）今泉勉（富山県庁）草島正治、田所光男（法大）谷口寛（立大）◇**特別参加選手**　山並正人（東北狭山KK）井伊恵治（仙台自衛隊）安斉正敏、岩淵光男（東北学院大）

心に希望と連帯の灯

世界めざし“おれたちも，やるぞ”

第1回男子ナショナルチーム合宿

日本協会競技力向上委員　渡部紘一

個人の向上が全体の向上に

〝常時練成〟が肝心

ト杯制覇をめざす男子ナショナル・チームの編成が決まり、その第一回合宿が新年早々から宮城県仙台市で行なわれた。

ユ杯に負けてたまるか、おれたちもやるぞ――と書けば、いかにもケチくさい。そんな気持ちではなく、日本のバドミントンの普及発展〝百年の大計〟のスタートにいう、誇りと希望を持った事業が、このナショナルチーム発足だと、我々は考えている。

結論からいうと、この合宿、多少の無理は承知だったが、やってよかった。なぜなら参加者一人一人の心に灯をともすことができたからである。

1月5日午後六時、仙台市木町通りの宿舎・深谷荘に一同集合。翌6日午前6時半起床、尚絅女学院体育館へのランニングから合宿の実働が始まった。

〔**1月5日**〕午後6時集合、ただちにミーティング。7時夕食、7時半、宮城県協会からごあいさつあり。10時半消灯。

ミーティングでは、合宿の趣旨にはじまり、どうしたらナショナル・チームとしての効果を継続してあげていけるのか、を話し合い、お互いに感じている問題点を討論した。

またコーチ陣から、大要、次のようなポイントを指摘した。

「短期間に、間に合わせ的な合宿をやるのは、時間と金、エネルギーの浪費でしかない。十分、目標を定め、その展望に立って強化育成に努めたい。

ナショナル・チームと銘打った以上、技術、試合等には、きわめて厳しいものが要求される。当然、選手を入れ替えることがある。

選手が固定化すれば、マイナスも出てくるが、ダブルスなどを考えると、ナショナル・チームでなければ、これまでのパートナーを組みかえ、最強のものをつくれない」

次いで、選手たちの意見を聞きながら、いろいろなやりとりをした。

選手の自覚という点では、一人一人のレベルアップが全体につながることを認識する。また合宿が終われば、ハイさよならではダメであり、合宿と合宿の間に、どれだけ一人一人が努力し、レベルアップして来るかが

問題であり、これがチーム強化のポイントであろう、ということに一致した。

この二点は、単にナショナル・チームの場合だけでなく、あらゆるチームと、選手にとってあてはまることであり、基本的に大切な問題である。

職場とプレーの板ばさみ
立場の悩み訴える選手

このあと、論議は職場（勉学）とスポーツという、アマ選手なら、だれでもかかえている共通の悩みに移った。これについては、協会―選手―会社の連絡を密にするしか方法はない、との結論になった。

この問題についての、選手側の発言は、大体、次のようなことであった。

「バドミントンは限りなく愛していても、現実に行動する場合、限界もある。選手は職場の人間であり（学生の場合も、勉強に置き換えれば同じ）職場とナショナル・チームの板ばさみになるようではこまる。

ナショナル・チームの意義は大きいし、職場の監督、選手たちも理解はしてくれるだろう。といって、今後、各種大会、合宿が重なれば、相当数の休み（休暇）が必要となってくる。

これを数えたところ、約六十五日ぐらい休まねばならぬ勘定だった。これまでのことをふり返ってみれば、協会と職場のつながりに欠けるところがあった。今後、協会はナショナル・チームが日本のバド強化にどれほど大切なものか、を会社に理解してもらうよう働きかけ、なお合宿での選手の動静や努力のぐあいを報告するなど、積極的に努力してほしい。

書類等も、早めに計画を出してくれれば、チームの協力も得やすい。いずれにしろ、会社の理解がなければ休日もとりにくいし、日常、職場でも楽しく働けない」

まことに、もっともなことである。単に技術指導者としての委員の立ち場ではなく、協会全体の問題として受けとめなければ、合宿だけ重ねても強化の実はあがらない、と痛感した。

しかし選手たちも、はっきりした目的意識をもってくれ、話し合ってよかった、と思う。部屋割については、さらによく話しあえるよう、選手にコーチを同室させた。

早くもとけ合ったムード
選手に積極性目立つ

〔1月6日〕午前6時半起床6時40分、ランニングで尚絅女学院体育館へ。

寒い時期でもあり、朝はケガしないよう注意を払い、主として体をほぐすことにポイントを置く。6時50分から7時20分まで、体操、バスケット（全員）。

朝食後、9時宿舎発、宮城県スポーツセンターまで10分のランニング。昼食をはさみ、ダブルスを主とした練習、乱打、ドライブを主とした基本練習、ジャンプでスマッシュの素振り。



▲東北工大前で小島（右）と田所選手

午後2時から5時、シングルスを主とした乱打練習（オール・ロング、オール・ショート、コート・ランニングの基本練習）ジャンプ・スマッシュ素振り。

〈練習でのポイント〉

・ゲームだけやればよい。という練習をやめ、基本練習を重視

・組み変えによって大型ダブルス（攻撃型）の育成

・個々のフォーム、基本技術の長短所を発見し矯正する

・全体にパワーがないので、とくに跳びついて球をキャッチ、反動を利して次の動作にはいるジャンプ・スマッシュの素振りを課題とし、たえず各練習の前後にくり返させた。

午後7時半ミーティング、10時、就寝。ミーティングでは

・考えた練習とプレーの必要性

・次の合宿に対して、身体のつくり方を研究する

・学生は社会人に対して試合できるチャンスだから頑張れ

・その他、選手たちから自分は部分練習を重点的にやりたい、サーブ・レシーブ、バックの球の処理、対スマッシュの研究が必要だ、パートナーとのダブルスの型をつくっていきたい…など、自発的、積極的な発言がとび出してきた。

やる気十分の感じであり、コーチとしてもうれしい。

スポーツマンカルテも実施

感じられる基礎体力不足

選手に対し、コーチとしての自分の意見を述べ〝スポーツマン・カルテ〟について話した。競技力向上委から依頼を受け、東大阪短大の佐藤先生に資料をいただき、原本をつくってみた。

二枚から成り、一部は選手の身体的なものや戦績など、外部に発表させるもの、一部はコーチ用で、選手の精神的、技術的なあらゆることを記録し、次回に役立てるようにした。

選手を継続的に育てる場合、判断材料が断片的なものではダメだ。コーチ、選手お互いが長所、短所を明確につかんだ上で努力していかねばならない。そのために役立てばさいわいと思って作成にあたった。

〈初日の練習から見た感想〉

・調整不足が目立つ
・基礎体力に欠けている
・パワー、バネがない
・一般的に身体全体を生かし切っていない。
・ラリーは続くが迫力がない（ミーティングで説明した）
・個人的にみて、不合理なフォームが目立つ

〔1月7日〕朝は前日と同じ。バスケットのほかトランポリンを入れた。午前10時10分、東北工大体育館までランニング。全部、登りの山道7キロ。

11時―午後2時ダブルス中心の練習。途中三十分、コーチと選手の研究会。2時から現場で昼食、地元役員、選手のお世話になり、学生選手はオニギリ8コも食べる。

3時半から2時間。シングルスを主として練習、20分乱打、残り10分はカウント、これを三回くり返す。帰路また7キロをランニング。夜ミィーテング、選手の主な発言――

・研究時間をとったのがよい
・ダブルスはむずかしく、よくわからないが、フォーメーションをつくり、パートナーを生かしたい。
・ダレを防ぎどんなときも全力でやろう（とくに一人のとき）
・海外にも目を向け、若手を海外に出してほしい。

〈練習の反省からのメモ〉

・コーチ、選手の間に打ちとけたいいムード出てきた。選手も一人一人目的意識出てきた。
・基本練習をきらう傾向があるが、工夫してしっかりやらせる
・体力には限界がない。常居練成ということを選手にいう。
・とびついてのジャンプ・スマッシュ、腰が痛くなるほど。効果が出てきた。

毎日、県協会関係者のご協力には頭が下がる思い。とくに荘司さんには選手のガット張りまでやっていただく。

伊藤先生がフォームを連続的にとる特製写真機を持参したが調子悪く、翌日に仕事持ち越し。先生の発案で夜食にニンニクが出た。一人10個も食べたものあり。アリナミンがんばれ。



この〝和〟を全国にひろげよう

地元の協力にはただ感謝

〔1月8日〕今朝マイナス7度。早朝練習同じ。本日の会場県スポーツセンター。午前はダブルス乱打、カウント、基本練習、ジャンプ・スマッシュ。午後シングルス、カウント。

ミーティングで各コーチから激励「スポーツは自分自身の問題、孤独なものであり、強くならないのは自分のせいだ」

〔1月9日〕朝は前日に同じ。練習会場は東北工大。午前は単複カウント、試合、午後も同じ、2対1入れる。終了後、宿舎までランニング。

大したものではないが故障が三名。寒いこともあるが、体力づくりが不完全だ。試合では勝つことを強調した。

〈ミーティングから〉

選手の主な発言

・チームワークよかった。一人一人ががんばり向上を誓う。下のものは上を見てがんばる。
・方針もつかめたし、自分なりに理解できた。会社にも連絡、理解（協会を通じ）をお願い。
・一から出直し、基礎を大事に
・フォームを写真にとってもらったり、色々な角度から話し合い研究できた。途中、故障して申しわけない。
・途中からの参加、申しわけない。次回には身体作ってくる

〈コーチ陣総括〉

九日夜で実質的に合宿終了。現時点での技術のみでなく、将来にわたるナショナル・チーム

や日本の強化について話し合ったことは尊い。時期、日程、場所等、無理な点もあったかもしれないが、この時期を逸した場合、その遅れは一歩、二歩ですまぬことを考えると、よかったとの感が深い。

おそまきながら、男子ナショナル・チームを編成、強化合宿をスタートさせた。

計画は四十六年早々からあったが、他の仕事に追われ、ユ杯に気をとられるなどで、手がつかなかった。

しかし、ト杯も近ずき、ちょうど、対外試合のあるたびに選考会をやる不合理への反省も手伝い、実行に踏み切った。

常務理事会の一致した意見は次のようなことであった。

「ナショナル・チームを常設のかたちでつくる。適時、強化合宿するとともに、ここから各試合に選手を推薦することにする。選手とは常時、血の通った連絡を保ち、実のある強化をはかる」

当委員会としても、さっそくこれを受け、検討したが、準備の日時不足などもあり、第一回の合宿さきである宮城県協会関係者はじめ、コーチ陣、選手にも不本意ながら迷惑をかけてしまった。

選手個々の悩みに触れたのも収獲。我々に課されたものは深く大きい。ナショナル・チームの自負、自覚と反省を次へつなげていきたい。

一口にいって、今度の合宿は技術というより、参加者全員の深くおわびしたいが、この不手際にもかかわらず、地元各位は本当によく協力して下さった。またコーチ、選手諸君も、ファイトをもって練習にあたり一応の成果をあげ得たものと確信している。

従来のように、ユ杯が終わってから、ト杯のことにとりかかるという方式では、どうしても男子強化がドロナワ式になりがちである。

もちろん、ナショナル・チームをつくったから、直ちにそれによって強化の実があがるなどと甘く考えてはいない。また、これを選手の固定化に結びつけること、チームが閉鎖的になることへの警戒は怠っていないつもりである。

新進の登竜門は十分、開いている。毎年、きびしい選考会を持って、シビアーな入れ替えを行うつもりである。

が、しかし、一応、チームを結成した以上、その中にふくまれた選手の最大限の伸長については可能な限りの努力を払わなければならない。

合宿中は、つとめて役員、選手諸君の新鮮な意見を聞いたつもりである。事実、国際経験の豊かな選手諸君の意見の中には、耳を傾けるべきものが多かった。委員会としては、なるべく、これらの建設的な意見の実現に力を入れねばならないと考えている。

合宿の中味については渡部委員らから発表されると思うので、ここでは委員長の立ち場から今後、問題としてとり上げるべきことを列記して、一応の責をとりたい。

1 選手諸君の生活環境
2 シングルス・プレーヤーかダブルス・プレーヤーか、または両刀使いか
3 ダブルスにおける既成ペアと新成ペアとのかね合い
4 基礎的体力と基本的技能において、現状維持の選手と開発可能の選手
5 攻めの選手と守りの選手
6 自己主張と団体協調のかね合いの問題
7 新旧交代か現状維持か
8 対外試合経験の積極的推進方策
9 サービスやトレーニングに改善の余地はないか
10 合宿間の常時態勢、連絡をどうするか
11 各県、各地に競技力向上委と直結する人の配置の是非
12 ガット1本二千円の例に見る選手の経済的負担の問題
13 選手の職場の中における微妙な立場への理解
14 今後、夜間（10時ぐらいまで）使える体育館とそれに応ずる宿泊施設がほしい……

以上の課題は互いに重なり合い、からみ合っている。金銭や品物、時間では解決し得ない面をふくんでいる。

要するに、戦うのは選手である。その選手諸君は、一時的なアドバイスや好意には感謝しながらも、ものたりなさを感じていると、直感した。

血の通った継続的なアドバイス、その結びつきが、これからの大きい課題であろう。どんなに切りつめてもよいから、早急にもう一度、合宿を持ちたい。全英に一部選手が出かける前に壮行試合をかねて…とも考えている。それ以後、全日本総合の終わるまで、合宿を持てる時間的空間の発見に苦しむからである。

コミュニケーションの場であった。この輪を拡げなくては発展を望めない。合宿が終わり解散しても、選手は〝一人〟ではなくナショナル・チームの一員としてつながっている。

技術面についても数多くの発見があり、カルテも生きた。これを海外にものばしたい。

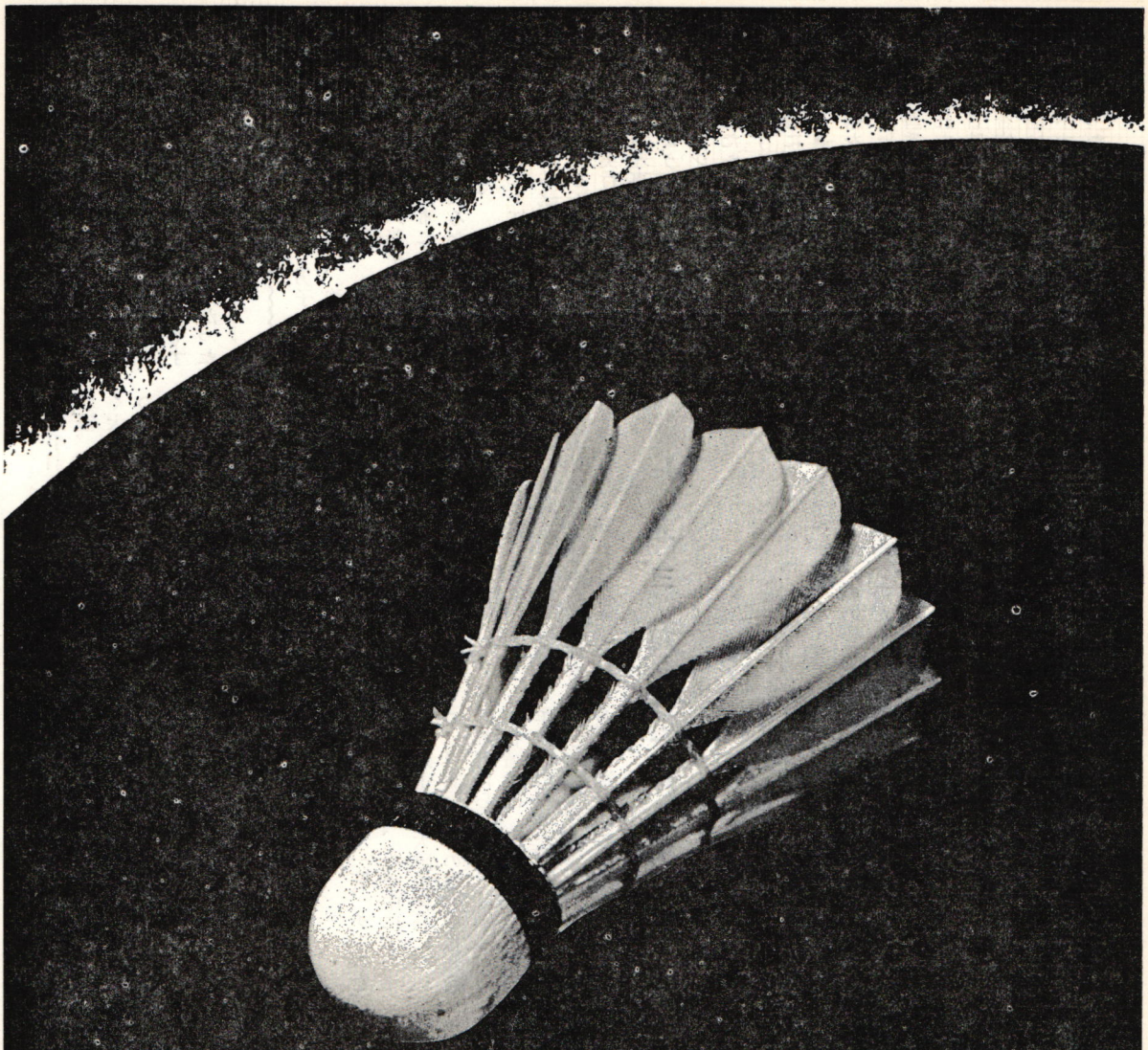
選手が会社や地方協会の一員として、その一人一人と結びつくことも大切だ。今回は地方での合宿だったが、この収獲は金に変えられぬ尊いものがある。

関係地元各位には感謝し切れないが、さらにこれを全国関係者の支援と受けとめたい。

選手のふところも苦しい。しかし、業者依存ということでなく、協会として大きな立場からこれを考えていく必要がある。

ナショナルチーム、課題と反省

競技力向上委員長　伊藤基記



新しい現代に生きるあなたの
「心」を捉えて離さない
――――サンバタキング――――

サンバタ

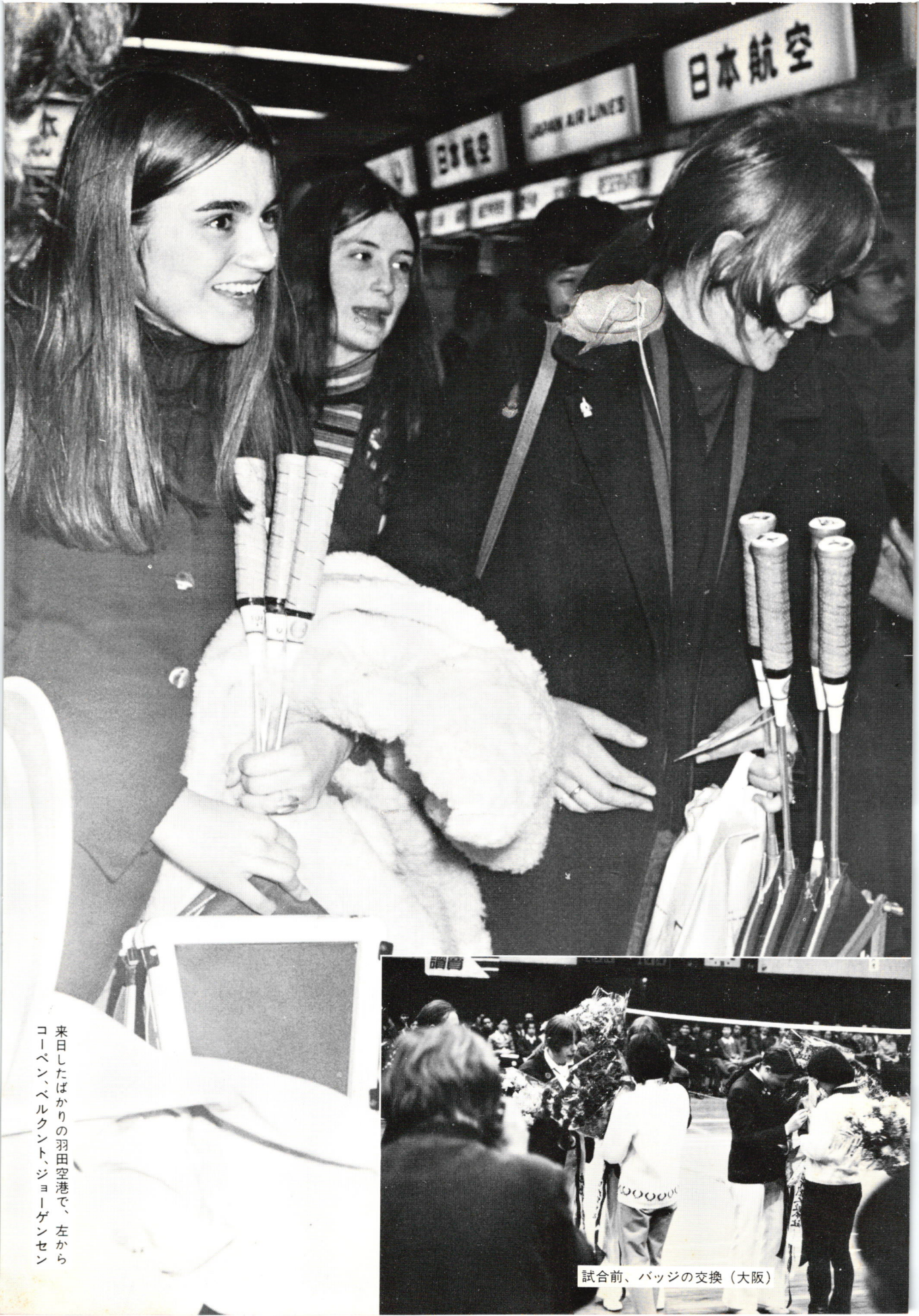


ようこそデンマーク

―二年ぶり、美女来日―

写真／松井亮磨、山田真市
青木昭二、毛利清志

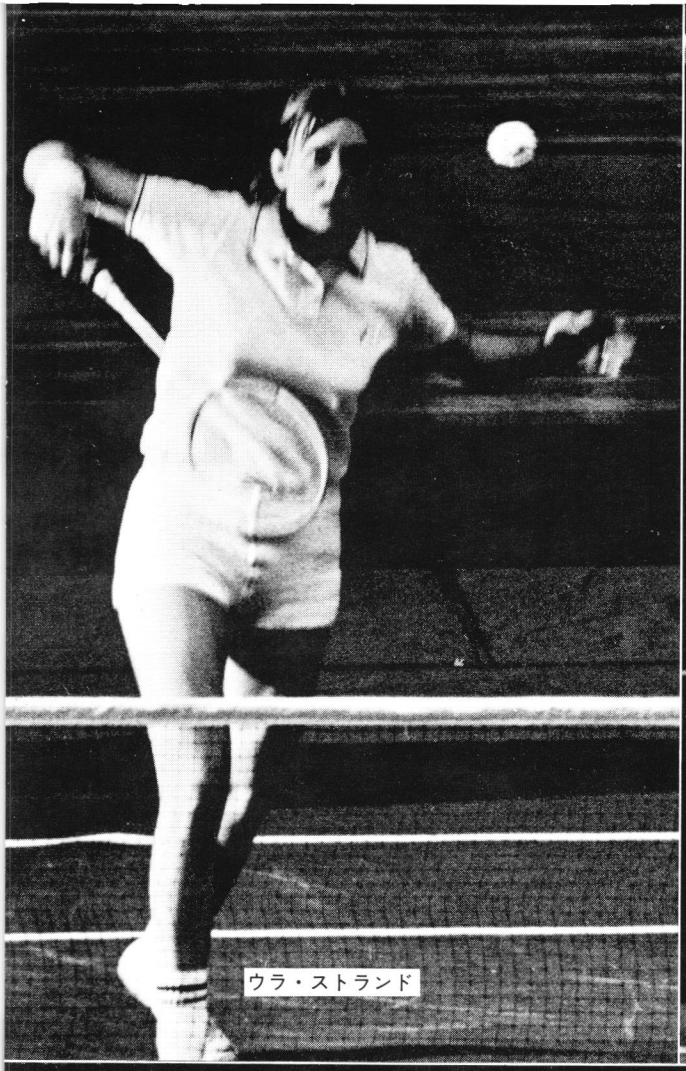
A dress rehearsal for
the Uber Cup Championship,
Japan vs. Denmark Jan.28-Feb.2



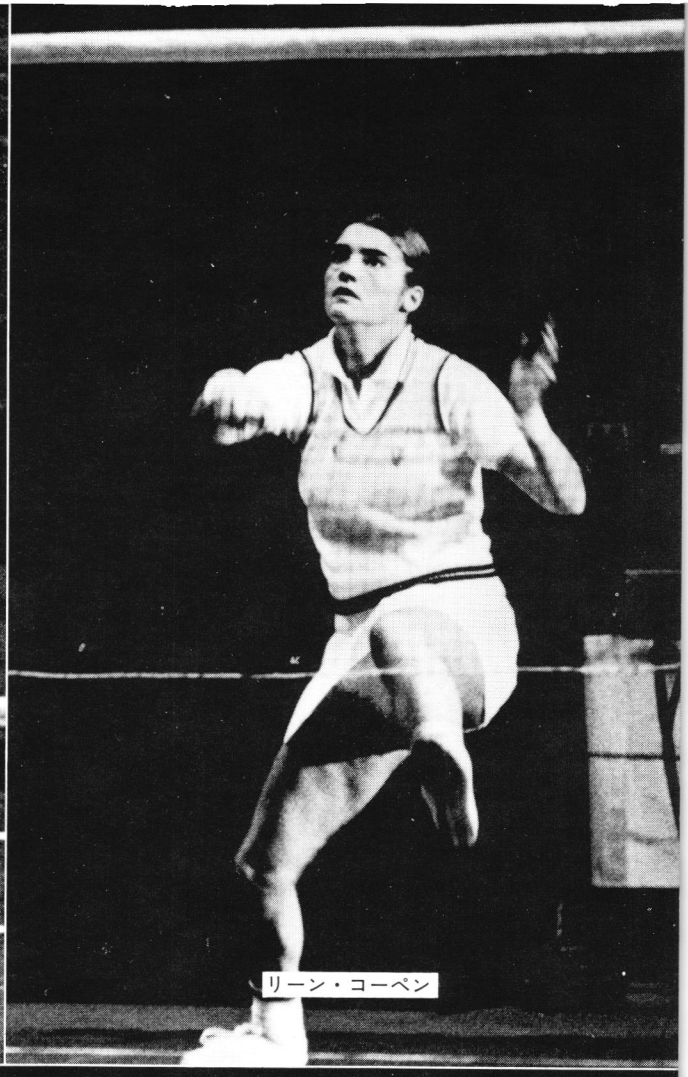
来日したばかりの羽田空港で、左から
コーペン、ベルクント、ジョーゲンセン

試合前、バッジの交換（大阪）

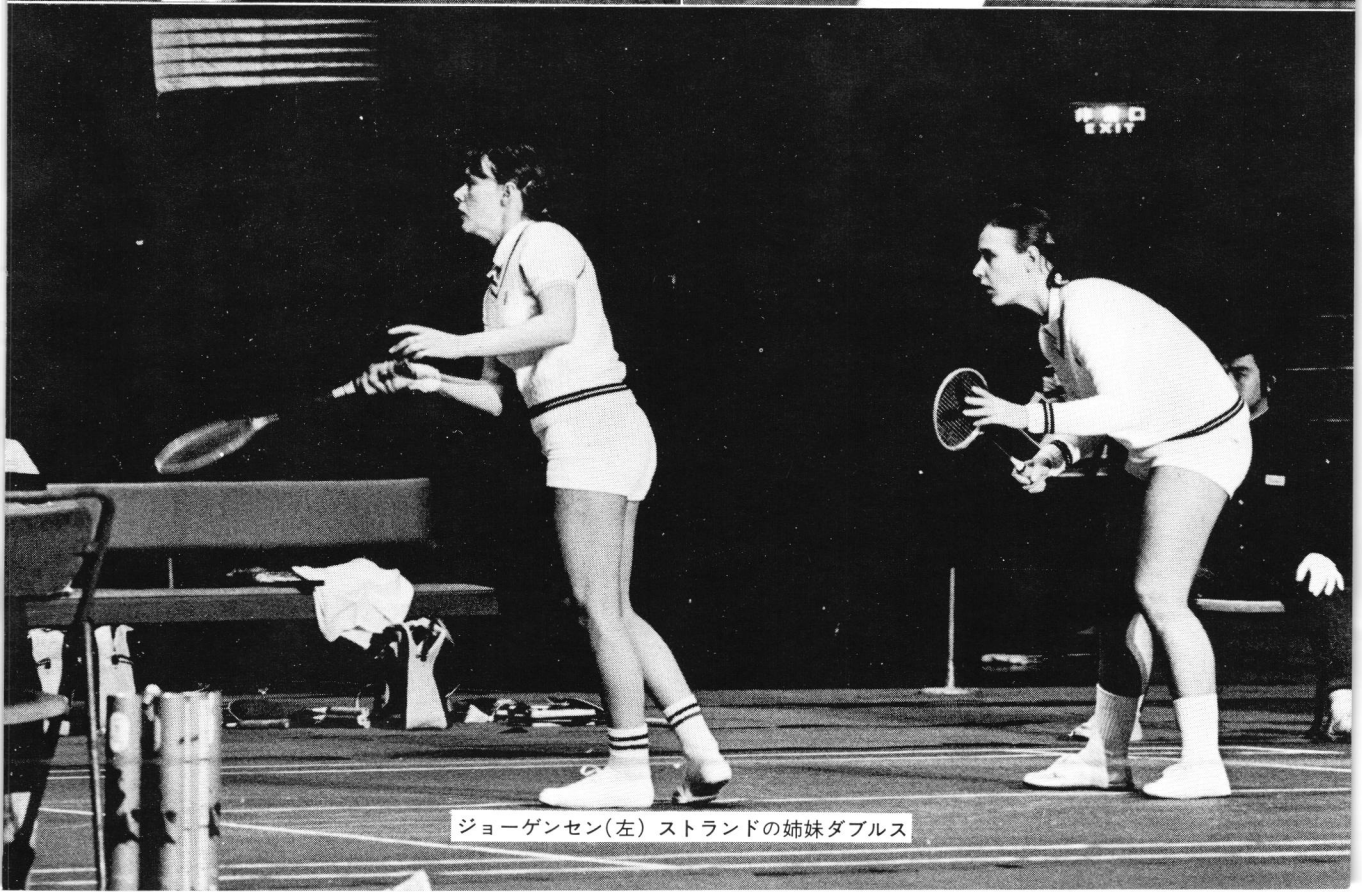
デンマークの美女たちは、よく飲み、よく食べた。来日直後、羽田空港の特別待合室(下)で、まず日本のビールを〝おいしい〟とゴクゴク。すぐ大阪へむかい、〝ああ、ハラがへったわ〟と晩酌つきで、むしゃむしゃ



ウラ・ストランド



リーン・コーペン

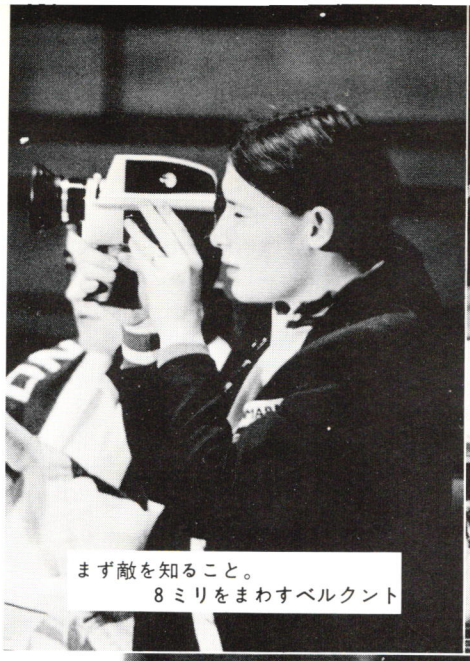


ジョーゲンセン(左) ストランドの姉妹ダブルス

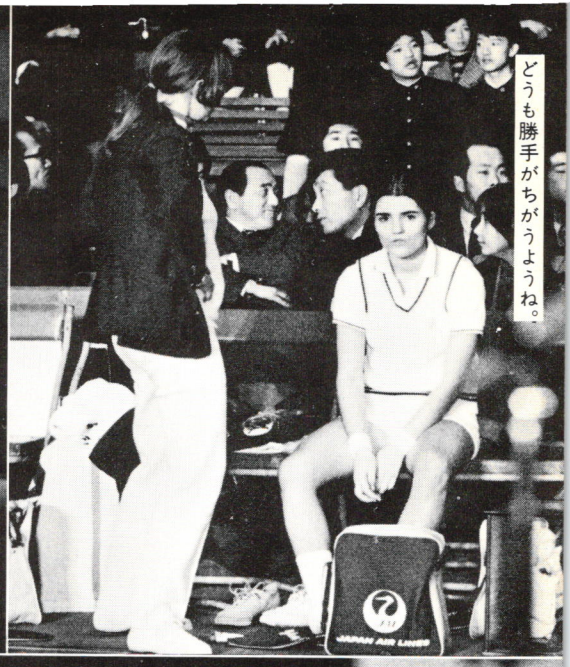


アン・ベルクント

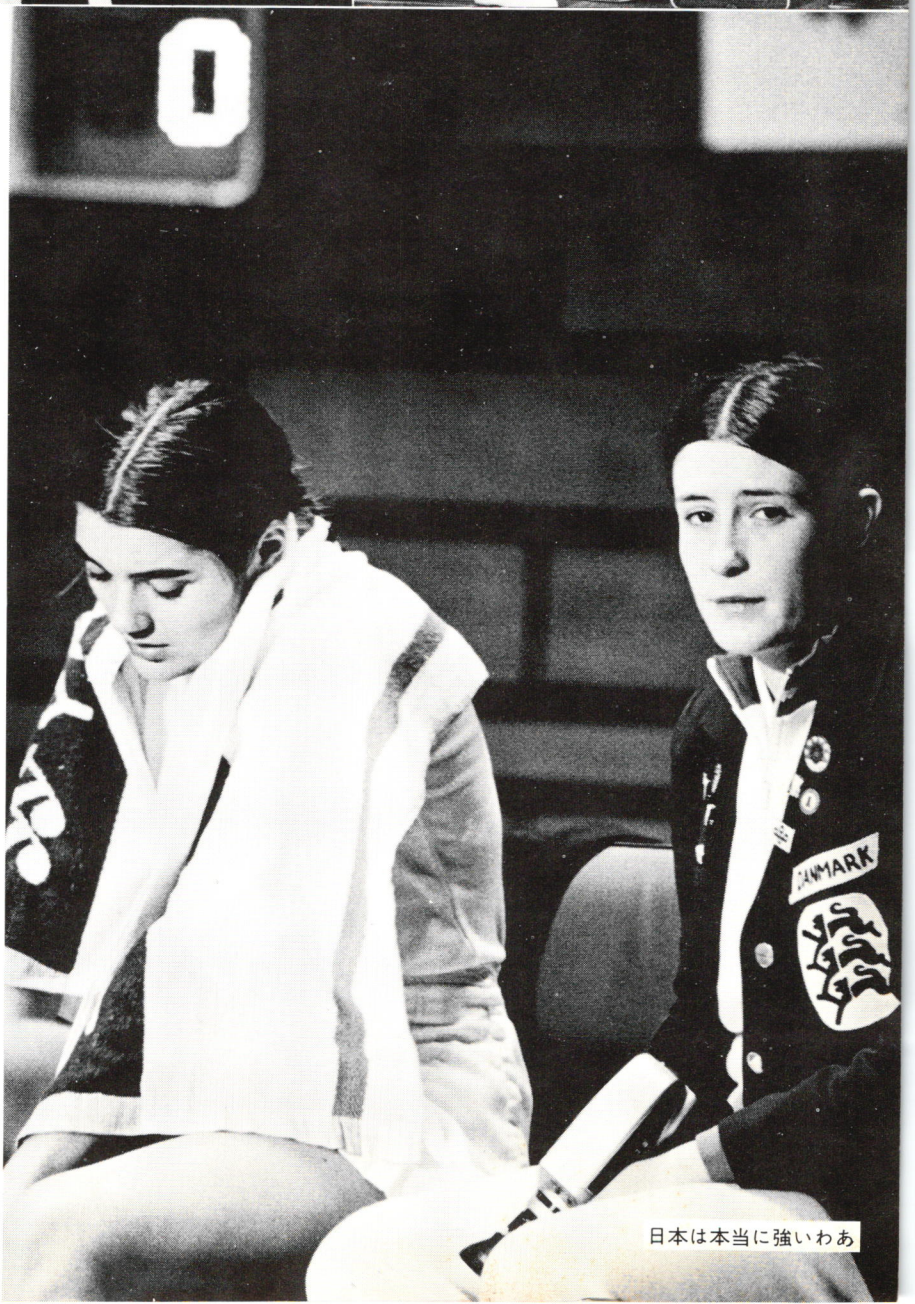
熱戦の合い間



まず敵を知ること。
8ミリをまわすベルクント



どうも勝手がちがうようね。

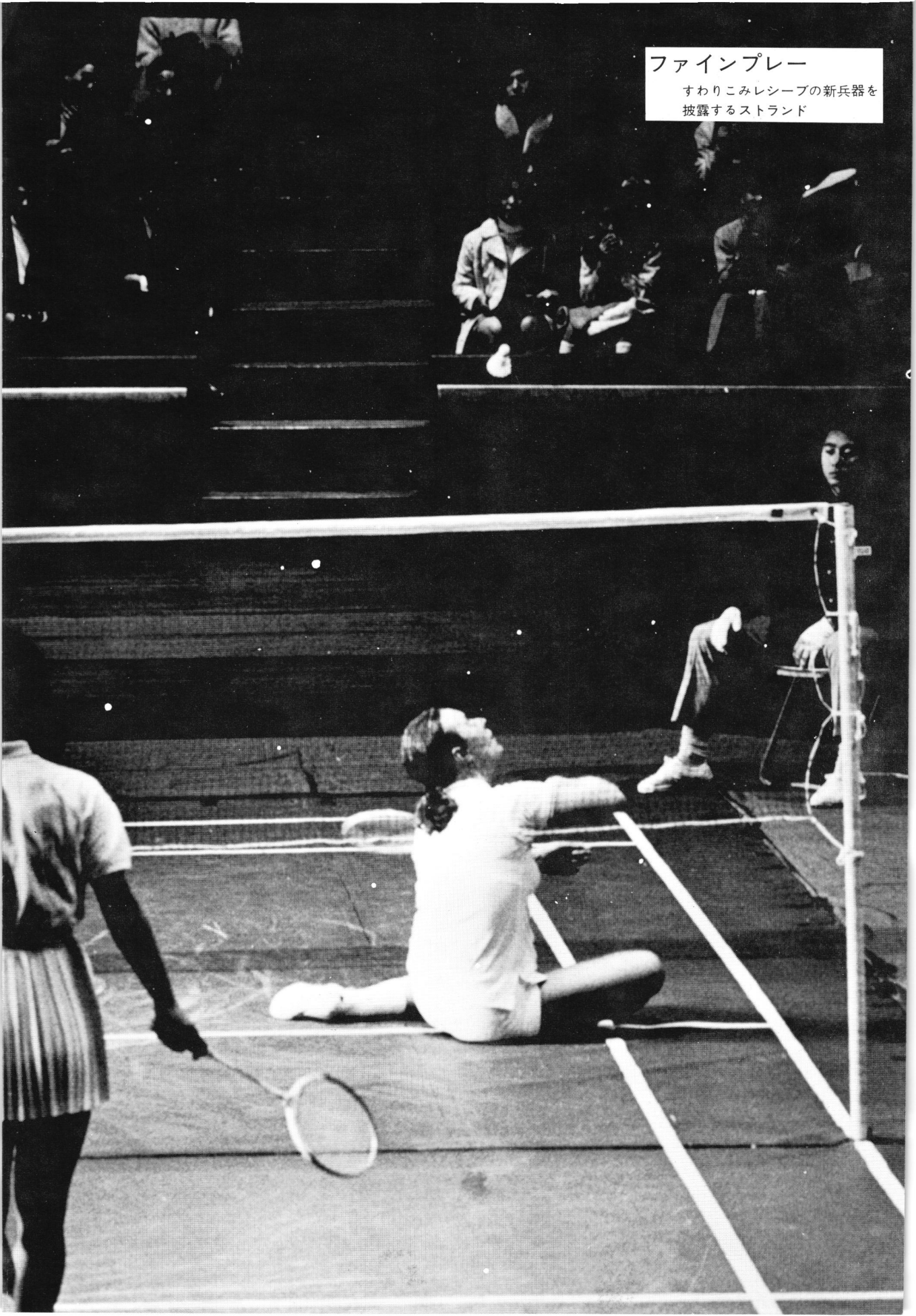


日本は本当に強いわあ





経験豊かなベテランは、勝っても負けても〝けっこう、けっこう〟と社交的だが、若手二人はセレモニー(上)のときから緊張、戦いすむと〝ああ、負けたわ、頭いたい〟



ファインプレー

すわりこみレシーブの新兵器を披露するストランド

昭和46年度日本バドミントン協会推奨用具

	銘柄名		価格	会社名
ラケットの部	No B-70	セブンティー	¥5,000	河崎ラケット工業株式会社
	No B-69	ブルーリース	¥3,500	〃
	No1,200	スタミナデラックス	¥2,800	〃
	No1,000	スタミナ	¥2,200	〃
	No 201	ウィニングコース	¥1,500	〃
	No 206	エバーウィン（張上り）	¥1,200	〃
	No 208	エバーウィンジュニア（張上り）	¥1,200	〃
	No	ダンロップマックスプレイフォート	¥4,320	株式会社 諸江製作所
	No3,500	キングメイト	¥3,300	〃
	No3,333	ゴールドキング	¥3,000	〃
	No3,000	ゴールドキング	¥2,500	〃
	No2,000	キングクリッパー	¥1,500	〃
	No1,000	シルバーデラックス	¥1,400	〃
	No 800	ダンディ	¥1,000	〃
	No T—1	エクセレント	¥3,500	大阪合繊株式会社
	No 2	ハイ・スピード	¥3,500	〃
	No 3	ハイ・トーマス	¥3,000	〃
	No 10	フィアレス	¥2,500	〃
	No 20	プロフェショナル	¥2,000	〃
	No 30	フェニックス・インペリアル	¥1,500	〃
	No 80	ピーコック	¥1,000	〃
	No 90	クラブモデル	¥ 700	〃
	# 8,000	アルミナハイパワー	¥4,000	株式会社ヨネヤマラケット
	# 7,000	アルミナエース	¥4,000	〃
	# 6,500	トップエース	¥3,500	〃
	# 6,000	ファイブエースデラックス	¥3,500	〃
	# 5,000	ファイブエース	¥3,000	〃
	# 4,000	カレッジエイトデラックス	¥2,500	〃
	# 3,000	カレッジエイト	¥2,000	〃
	# 2,000	キングダイヤ	¥1,600	〃
	# 1,000	クィーンハート	¥1,300	〃
	# 8	スリーエイト	¥1,000	〃
	# 7	ラッキーセブン	¥ 800	〃
		キャリー 7	¥2,500	株式会社 メトロ
		カァルトンラケット 3ポイント7	¥5,800	〃
		カァルトンラケット 3ポイント9	¥4,800	〃
	No4,000	ニューアルバート	¥2,500	株式会社 トヨダスポーツ
	No3,000	ニューブルー	¥2,000	〃
	No2,000	ニューブラック	¥1,500	〃
	No1,000	ニューミニ	¥1,200	〃
	No 8	ウインナー	¥ 900	〃
ウェアーの部	No 500	半袖シャツエイトロック（男子）	¥1,200	河崎ラケット工業株式会社
	No 510	半袖シャツエイトロック（男子）	¥ 900	〃
	No 518	半袖シャツエイトロック（男子）	¥1,600	〃
	No 502	長袖シャツエイトロック（男子）	¥1,300	〃
	No 532	ショートパンツストレッチ	¥1,700	〃
	No 533	ショートパンツ（男子）インサイドベルト付	¥1,500	〃
	No 535	ショートパンツ（男子）	¥1,000	〃
	No 525	長スボンストレッチ（男子）	¥3,000	〃
	No 500	半袖シャツエイトロック（女子）	¥1,200	〃
	No 510	半袖シャツ（女子）	¥ 900	〃
	No 595	スコート（プリーツ）	¥1,100	〃
	No 592	スコート（ボックス）（ユーパ型）	¥1,500	〃
	No 590	スコート（フレアー）	¥1,500	〃
	No 505	ノースリーブシャツ	¥1,200	〃
	No 502	半袖・長袖シャツ（女子）	¥1,300	〃
	No 518	ライン入りシャツ（女子）	¥1,600	〃
	# 104	ショートパンツ	¥1,600	株式会社ヨネヤマラケット
	# 105	ショートパンツ	¥1,400	〃
	# 106	ショートパンツ	¥1,100	〃
	# 107	シャツ（男子）	¥1,100	〃
	# 108	〃	¥1,400	〃
	# 109	〃	¥1,500	〃
	# 200	ミニスカート	¥1,800	〃
	# 201	〃	¥1,600	〃
	# 202	〃	¥1,200	〃
	# 203	〃	¥1,100	〃
	# 204	シャツ（女子）	¥1,400	〃
	# 205	〃	¥1,400	〃
	# 206	〃	¥1,500	〃
シューズの部	No 396	チャンピオン	¥1,300	河崎ラケット工業株式会社
	No 392	ジュニア	¥ 850	〃
	No 390	5ポイント	¥1,000	〃
	バドミントンシューズ		¥1,400	株式会社ヨネヤマラケット

自主的な練習が不可決

世界のレベルに追いつくには

続・大型ダブルスの考察 ——銭谷選手の場合——

〈距離〉⑫

●上級編〈プレーヤーへの手紙〉

元日本教職員連盟常任理事　三須徳次

中学校時代から経験した山田選手が、総体のダブルスで第2位なら、銭谷選手は高校から始めて、シングルスで第2位を獲得しております。

すでに№22・23の合併号で、高校から始めた選手を例に説明してありますので、簡略にいたしますが「うちの県は中学でやっていないので、どうも他県に追いつけない」との話を聞きます。

高校でラケットを手にするより、中学時代からなじんでいた方が有利ですけれど、中学では、ほかの運動をやっており、高校から入部する部員のことを考えますと、いちがいに経験者ばかりを対象にスケジュールは組めません。

中学時代にスポーツをやっていれば、高校からバドミントンを始めても、経験者に追いつけた例はいくらでもあります。



中学時代は野球の選手

銭谷選手もそのうちの一人です。中学時代は野球部で活躍しており、高校からバドミントンを始めましたが、週7日で1日2時間半と、練習量は豊富だったと思います。

高校時代、技術的にはオール・ラウンドのプレーと、レシーブの強化を第一目標にし、ついで強力なスマッシュを打てる練習をしており、トレーニングは個人的にあまりやらず、クラブでダッシュ、ジャンプ、腹筋やランニングを主にしてやっていたそうです。

野球をやっていたので、手首や腰は強かったと思います。野球から転向した選手には、共通してシャトルを打った後に、体をまき込む欠点がありますけれど、銭谷選手はサマになったフォームでしたので、進歩が早かったのではないでしょうか。

石川県はバドミントンの盛んな所ですが、銭谷選手の学校は熱心な顧問の先生や先輩がおるとはいえ優勝経験がありません。これから述べる体験談を聞きますと、いろいろ選手自身の参考になることが多くあります。

×　×　×

……高校一年生のときはコートの関係で、あまり打たせてもらえず、そのうえ、ぼく達が三年生になったときより、当時の方が練習が厳しく、とてもつらい毎日でした。

効果あったバケツノック

やっと七月になって、本格的に打たせてもらえましたけれど、一年生のなかでは、ぼくが一番多く打てる機会を与えられたようです。またパートナーが非常にバドミントン好きで、クラブが終っても学校に残り、夜七時か八時頃まで、シャトルを打ち合いましたが、それでもなんとなく、もの足りず、早朝に登校し、授業前1時間ぐらい練習を続けておりました。

ある朝のこと、例によって練習をしようと思い、体育館に行ったところ、その日にかぎってカギがかかっていたので、仕方なく更衣室の窓から入ろうとしているときに、運悪く小使のおじさんに見つかり、ものすごく叱られたことがありました。そのときのことを思い出すと、けっこう面白かったと思います。

強くなれた原因は、一年生のときに補欠で、総体を観戦できましたので意欲が燃え、二年生でダブルスのみの出場でしたが、その出場経験が大きかったと思います。

二年でダブルスに出場してから、翌年の出場するまでが、一番充実した練習をやりました。三年生での総体は、シングルスだけの出場ですが、初めから決勝進出は考えておらず、気楽にゲームをやっておりました。決勝でも勝とうという気持があまり出ず、むしろ今にして思えば、欲を出していたらよかったのではないか、と考えています。

46年度都道府県別会員登録数

自　昭和46年4月1日
至　昭和46年12月31日

県名	一般	高校	計	県名	一般	高校	計
北海道	200	600	800	京都	118	190	308
青森	95	41	136	兵庫	346	150	496
秋田	88	200	288	大阪	352	927	1,279
岩手	57	36	93	奈良	49	248	297
宮城	141	685	826	和歌山	110	99	209
山形	50	360	410	滋賀	42	353	395
福島	95	156	251	岡山	176	30	206
埼玉	118	43	161	鳥取	22	43	65
茨城	89	105	194	広島	96	63	159
群馬	120	208	328	島根	17	179	196
栃木	64	256	320	山口	212	79	291
千葉	80	60	140	香川	51	92	143
山梨	20	114	134	愛媛	70	116	186
東京	1,144	1,397	2,541	高知	20	70	90
神奈川	216	680	896	徳島	21	135	156
新潟	316	756	1,072	福岡	434	133	567
長野	45	96	141	長崎	71	32	103
富山	176	466	642	大分	70	22	92
石川	89	454	543	熊本	176	252	428
福井	58	48	106	佐賀	23	0	23
静岡	210	406	616	鹿児島	93	88	181
愛知	795	750	1,545	宮崎	101	20	121
岐阜	166	629	795	沖縄	31	106	137
三重	50	237	287	計	7,183	12,210	19,393

練習では〝バケツのノック〟が効果があったと思います。ぼく達はバケツノックと呼んでおりますが、破損したシャトルをバケツに入れて、一人30本のレシーブ練習を行ないます。打たれたシャトルをノー・タッチにしますと、1本につき5本、余分に練習させられました……

× × ×

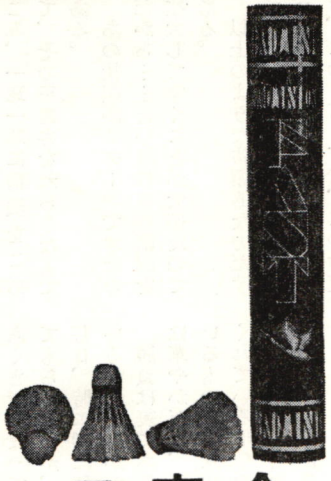
両選手とも、いろいろと先生やコーチ、先輩から教わったことが多くあったと思いますが、ひと口にいって、二人とも、自分からやった努力が実りつつあります。特に男子選手は与えられた時間以外に、トレーニングなり、練習をつまなければ外国勢を抜くことは不可能です。

高校時代は上背を利用してのスマッシュが一発で決まるケースが多く、長身者は次の行動なり備えを、おろそかにしがちです。

社会人、あるいは大学で練習や試合をするようになると、スマッシュ一発では決まらず、スマッシュのレシーブに手を焼いてしまいます。

レシーブされたシャトルに追いつく第一歩目が瞬間的に出ない緩慢な動作は、長身者に多く見られます。（続く）

水鳥 検定合格球
ファストゴールド
ファストシルバー



ファスト印シャトルコック製造発売元
有限会社 ジャワ商会
山形市六日町7 28
電話 02362（22）3994(代) 3280・0545

自分を不利な状態に置く

苦しい場を想定した練習が必要

“自信の拡大”が勝負強さにつながる

日本協会協技力向上委員長　伊藤基記

あの人は勝負に強いとか、反対に勝負に弱い、ということがある。

ストロークの練習や、かねての試合練習ではなかなか手ごわいところを見せるが、かんじんのこれはという試合になると、きまって冴えないという者があるかと思えば、逆に平素は地味な存在であり、それほど強いという印象を与えない者が、大観衆をいれたスタジアムで、堂々と相手を寄り切るような試合をすることもある。

相手しだいでは、目の覚めるような実技を見せるのに、どうしても決勝まで進出し得ない者、だれとでも張り合って圧勝ということはないクセに、けっこういい線まで進んでゆく人もいる。

優勝するかと思えば、一、二回戦で敗れてみたりする、いわゆるムラのある者、コンスタントに強さを見せて、王座を維持するもの、さまざまである。

今迄のところは岡目で客観的にプレーヤーの層を眺めた場合のことであるが、プレーヤーの気持というものは複雑である。

自分より体力的、技能的に劣っている者に対しては自由自在に使えた技が、まさっている者に対すると、トタンにいうことをきかなくなる経験を、皆さんもお持ちであろう。

また、リードしている時や、カウントがつまっていない時には、難なく送っていたストロークが、追いつかれそうになったり、カウントがゲームなりマッチのポイントに近づくと、一球一球が急に心もとなくなり、まるで薄氷を踏む思いで苦戦に陥ったニガい経験も、大方の人々が持っておられるだろう。

追いつめられた時に、ここぞというときに、自信をもって打てるストロークほど貴重なものはない。

よほど修練をつんだものでなければ、いざというときのストロークが、苦しまぎれの狂い打ちになりかねない。リキめばリキむほど、モーションが大きく丸出しになり、冷静な相手に先手をとられて、汗と疲労が増してゆく。手を出しつくしてしまうとあとがない。

とっておきのストロークの利き目がないときほど苦しいものはない。自信を失ったときに疲労は急速に足をとめ、体の動き全体をぎこちないものにしてしまう。

しかし、苦しまぎれに敢行したストロークがたまたま決って、相手の乱れが見え、自信を盛り返した時は、そこが活路になることもある。苦しい時に、きりぬけることができた時のストロークを反省してみると、相手にもよるが、いわゆる年期の入った、身についたストロークを敢行しているものである。

難かしいときに使えて、苦境を切りぬけることのできるストロークは、いったい、どうして身につけることができるのであろうか。

ひと通りストロークを練習して、汗が出たところで、ゲームを楽しむのもよいが、こういう毎日の連続では、いざというときに押しが出ないことはいうまでもない。みずから条件をつけて、なるべく自分を不利な状態において、それを切りぬける練習をしてゆく工夫が大切である。

一例をあげれば、ドロップをリターンするにしても、普通のホームよりも、さらに遠いところまで帰って、そこからスタートして、再びネット際におどりこみ、一球一球に精魂をこめて、その正確さをねらうなどである。

あの状態がリターンできたのだから……という自信の範囲を拡大してゆくことが大切なのである。

以上のような防禦的な力だけでなく、オフェンスの時のストロークにしても、この状態のとき、このスピードで、この角度なら絶対に、という自信の積み重ねが肝要である。

時には優者の胸をかり、同水準のものとしのぎをけずり、下級者に余裕をもって対する。場の強弱の変化も指導者としては忘れてならぬことであろう。

要するに、宮本武蔵が五輪の書にいう「常の心」と「戦いの心」との同一化ということである。常に戦いのときの心を失なわぬ、みずからに対する、不断の厳しさが積み重ねられ、蓄えられ、醸酵させられて、別にリキまなくても、自然に、その場に応じて技が発揮されるところに、この技は無言の威圧となって、相手に迫るはずのものである。

名手は一日にして成らずである。追いつめられて、あばれてみても根性はできない。試合はあくまでねばって最善をつくしてもらいたいが、本当の勝負は毎日、時に刻に積み重ねられている何物かにかかっている。

勝負は表にあらわれたところは華やかだが、それを動かしているものは、氷山の海面下にかくれている部分のように、全く視界からかくされた、地味な、孤独のものである。

ユ杯の方も頼みます

おめでとう中山・湯木組

日本スポーツ賞表彰式

「おめでとう、女子バドミントンの中山・湯木さん」―一九七一年度のアマチェア・スポーツ界〝日本一〟を表彰する読売新聞社制定の第二十一回日本スポーツ賞表彰式が、一月二十九日正午から東京・有楽町の読売会館九階貴賓室で開かれた。

晴れの受賞者は、昨シーズン女子バドミントンのダブルスで世界の主要タイトルを独占した中山紀子(旧姓高木＝弘文堂)湯木博江(河崎ラケット)のベテランペア。

金色に輝く大トロフィ(二科会・故笠置季男氏作)を胸に、二人は「〝成人式〟を迎えたような気持ちです」と喜びを語った。**(本欄の記事は1月30日付読売新聞によるものです)**



金色のトロフイを胸に＝読売新聞写真部提供

表彰式には、35競技団体から二十六選手と十二チームが出席、まず原四郎読売新聞社副社長が「新興のスポーツを奨励することも、日本スポーツ賞制定の趣旨の一つです。その意味で一般には日の当たらない競技と考えられていたバドミントンが認められたのは、意義深い」とあいさつ。

ついで、審査にあたった日本スポーツ賞委員を代表して、石井光次郎氏(日本体協会長)がバドミントンに決まるまでの選考経過を説明した。

このあと、はえある表彰に移り、務台光雄・読売新聞社社長から中山さんに表彰状、湯木さんに金色のトロフィが手渡され本田弘敏・日本バドミントン協会会長に奨励金が贈られた。

さらに橋本道淳・読売新聞社事業本部長から、重量あげの三宅義行選手らに記念トロフィと賞状が授与され、高見三郎文部大臣の祝辞が披露されたあと、務台社長が「体格に恵まれない日本の女子選手が世界を制したことは、すべての日本女性に大きな励みとなるでしょう」とバドミントンの受賞を祝福した。

これに対して、本田日本バドミントン協会会長が―「わが国で最も権威あるスポーツ賞を受けたことは、ことし六月、東京で開かれる世界選手権(ユーバー杯)大会で三連勝めざす日本代表チームにとって、これ以上の励みはないと考えます。今後は受賞に恥じない精進を重ねることを約束します」と力強い答辞を述べ、表彰式を終わった。

バドミントンの〝成人式〟です

中山・湯木選手の話　感激で胸がいっぱいです。先輩たちから受け継がれてきた私たちの努力が、日本スポーツ賞の受賞という形で世間に認められたことは、バドミントンが〝成人式〟を迎えたようなものだと思います。六月のユーバー杯大会で三連勝をねらうことはもちろんですが、今後は〝おとな〟の競技者として受賞に恥じない努力を続ける覚悟です。

おーい、誌上コーチと参考書やーい



カットは熊本・後藤早苗さん提供

今日は、はじめまして。私はバドミントンの愛好者であり、またプレーヤーでもあります。バドミントンは中学校、高校と六年間、これからも続けるつもりでいます。

成績はインハイの地区大会ダブルス4位、シングルス、ベスト8、国体ダブルス全道4位、シングルス、ベスト16と、まあまあまよい結果ではありませんでしたが、振り返ってみると、思い出深い試合ばかりでした。それに十一年ぶりに全国大会出場という思い出もできました。

これから大学へ行って、なおいっそう精進しようと思っています。「バドミントン界」などを参考にしているのですが、さらに、よい練習方法などをお聞きしたいのです。（札幌市琴似2条7丁目513小野寺寛恭＝北海高校）

編集部から——札幌には日本協会の理事で、国際学生選手権マニラ大会の監督をつとめ、日本体育協会一級トレーナーの資格を持つ小飼栄一氏（札幌市北二条東十一丁目）はじめ、優秀な方々が数多くおります。おりにふれて、具体的なことをお聞きになったらいかがでしょうか。

バドミントンはスポーツですから、頭でいくら理解しても、実際に身体が動き、それをハダでつかまなければ意味がありませんが、しかし、読んで勉強することも大切です。

あなたは「バドミントン界」を何号からお持ちですか。もし最近からでしたら、第2号からのバックナンバー（絶版品切れのものもあるのでお問い合わせ下さい）を揃えて、もう一度お読み下さい。

本誌は「技術講座関係のページが少い」と読者からしばしばご指摘を受け、申しわけなく思っていますが、それでも、書かれてあることは、何度読み返してもタメになると思います。

参考までに、現在、出版されているバドミントンの参考書も申し添えておきます。

①ウイニング・バドミントン（兵藤昌彦訳、不昧堂書店、600円）**②最新バドミントン教室**（三須徳次、林書店、680円）**③バドミントン上達法**（伊藤基記、不昧堂書店、600円）**④バドミントン**競技（川端昇市旺文社、170円）**⑤バドミントン入門**（ベースボール・マガジン社、170円）**⑥バドミントン**（今井先訳、ベースボール・マガジン社、180円）**⑦図解コーチ、バドミントン・ゲーム**（相馬武美、成美堂、200円）

× × ×

バドミントン界を毎月、愛読させていただいており、たいへんうれしく思っております。

現在、バドミントン練習を楽しみにして、ますます意欲を燃やしているわけですが、練習にあたり、いろいろ（たとえばフットワーク）とわからないことばかりで困っています。

それで、バドミントンの基礎から練習方法等をふくめて、試合に至るまでの参考書がありましたら、書名、発行所、値段、購入方法等を教えていただけないでしょうか。（名古屋市中区三の丸二丁目6番1号、名古屋営林局 榊原さと子）

編集部から お答えは、このページの札幌・小野寺さんへのもので代用させていただきます。購入法は近くの書店でお聞き下さい。なお、フットワークに関しては、本誌でおなじみの三須徳次先生のお書きになったものが、異色の説明をしていますので、申し添えます。

こんなバインダーはいかが

前略 いつもお世話になっております。バドミントン界をまとめてとじるバインダーについての記事、拝見いたしました。

私どもは、コクヨレターファイル（7—11㉕）を利用してとじております。穴は鳩目パンチであけますと、大変、ぐあいよいようです。

当レターファイルは三〇円ぐらいですので、手ごろです。参考になれば幸いです。（福島県喜多方市役所内、関口明）

編集部から——ありがとうございました。当方、微力のためにご迷惑をかけ、読者の皆さんに申しわけなく思っております。今後ともよろしくご支援お願いします。

もう一度、初心者コーナーを

〝初心者の疑問に答える〟というコーナーが今回で終わるのが、とても残念です。バドミントンをはじめて一年目の私にはまだわからないことばかりで、このコーナーはとてもうれしいものでした。

また、このコーナーが始まる

のを楽しみにしています。（京都市中京区壬生淵田町34の1、池田道子）

編集部から——ご愛読ありがとう。筆者・秦浩吉氏が多忙のため、やむを得ず、いったん中断しました。ごく近々に、別の形で、続けていくつもりです。よろしく。

協会はPRがたりないぞ

今年の六月にユーバー杯が東京で開催される予定だそうですが、その入場券の購入方法を教えて下さい。

話題は変わりますが、私は約二年半前に、日立造船舞鶴工場にバドミントン部を先輩といっしょになってつくりました。

それまでバドミントンは女の子のする遊びだと思っていました。現在でもバドミントンを理解する人は多くありません。これは日本バドミントン協会の運営の方針が誤っているのではないかと思います。PRがたらないのではないですか。

そのためにも、今度開かれるユーバー杯をマスコミを通じて民衆にアピールし大成功に持っていってもらいたい。TV放送も、できるだけ午後8時ぐらいから流せるよう努力をしてもらいたい。（舞鶴市字浜954、西村隶義）

ユ杯の入場券について

編集部から——第一点のユ杯入場券についてお答えします。現在、日本協会は各方面から準備を進めており、入場券はデザインが出来つつある段階です。しかし、料金、販売法は最終決定しておりません。決まりしだい本誌でお知らせします。日程については本号の〝日本協会総会〟の欄をごらん下さい。

広報委員会から——PR問題についてお答えします。運営の方針がまちがっているかどうかはともかく、全体的に力不足であることは否定できません。

協会のPR窓口である私どもの立ち場からは、いいにくいことですが、国民全体にアピールしていく必要性について、協会自体にまで、認識がたりない点もあり、反省しています。

これについては、しばしば本誌バドミントン界の誌上でもマスコミ関係者などから指摘されているとおりです。

もちろん、私どもも、協会自体も、今度のユ杯には全力投球でいくつもりですので、よろしくご支援下さい。

ただ、PRするといっても、バドミントン自体の価値認識がまだ、マスコミ関係でも浅い（それも私たちの責任ですが）ため、他の人気ある競技のようにうまくはのってくれない、というイタチごっこめいた悪循環が現にあります。

やはりPRを本当にやるには協会役員の一人一人が「こんないいものがあるよ」と話すだけでなく、マスコミ関係者と親しくなって、理解してもらうことが必要だと思います。

ただ、協会のためにひとこと弁明しておきますと、協会といっても、それは全国の都道府県協会、学連、実連、教職員連盟等の代表が集った、いわば〝役員集団〟であり、それらの人々は本業を持って、全国に点在しているため、チェはあっても、なかなか思うようには動きにくいのです。

広報としては、これら日本協会を激励して、がんばってもらうだけでなく、広報自体もバドミントン界編集部と協力、いっそう努力するつもりです。

お断わり

前号までにお知らせした「全日本総合選手権のプログラム、無料で差し上げます」は、読者各位からの希望がさっとう、たちまちストックがなくなりましたので、あしからず、ご了承下さい。なおデンマーク戦のプログラムについては巻末をどうぞ。

どうしたら〝カベ〟破れるか

前略　私も大学に入りまして早くも三年が過ぎようとしておりますが、バドミントンに関する技術が、この一年ほとんど上昇していないのを残念に思うきょうこのごろです。

私自身、それほど努力しているとはいえませんが、他の努力している部員をみても、ある程度まではすぐ行っても、それから先きはピタリと止まってしまうのは、まったく歯がゆいばかりです。

ご承知のように、西日本は競技のレベルが低く、さらにそれが中国、四国となると、こと大学に関する限りかなり低い位置にあります。

わが広島大学は、練習その他に若干の欠陥があるにせよ、ここ数年、あるカベにぶち当たっているような気がしてなりません。理由として他の上手な人たちを積極的に招くといった姿勢に欠けているのでは、と思っているしだいです。

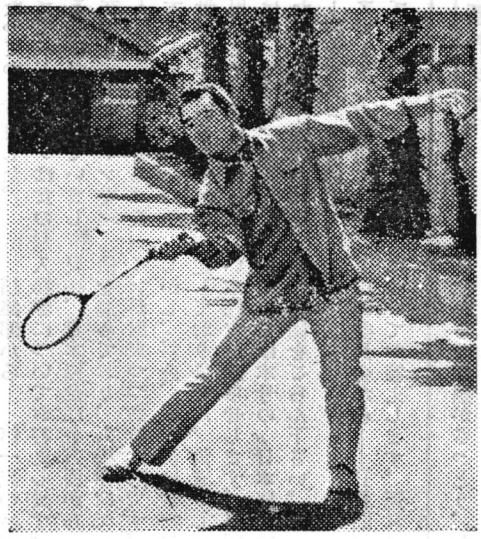
本やバド界を参考に、みな各自いろいろ試みているようですが一向にそのカラを破れそうなけはいが見えないのは、やはり外部からのナマの教えがないからだと思わざるを得ません（強い表現になりましたが）

先日も県の一般の人が来られて、ほんの短い間でしたが、相手をしていただき、非常に参考になりました。できるかぎり、そういう機会を利用して、わが部に新しく、かつ大きなものを見出していきたいと思っています。

協会の方で、なにかの折りに広島の方へお寄りの際には、ぜひ広大バドミントン部にいらして下さるよう、お願いします。

また、現在の私たちのバドミントン部になにかよい示唆、あるいは機会がありましたら、ぜひ、お知らせ下さい。

まことに勝手なお願いですがなにかの折りに、協会へこういった相談をさせていただきたいと、前々から思っており、やっ



ミスタージャイアンツの休日
キャンプでの休日のひととき。ホテルの玄関先で巨人・長島選手のバドミントン

（報知新聞から）

とペンをとったしだいです。

今後とも広島大学をよろしくお願いします。（広島市住吉町13の13宮原アパート内、祖田純治）

編集部から——大部、お悩みのようですね。全国には、あなた方と似た立ち場の愛好者も多いと思います。

この紙面では十分にお答えできぬのが残念ですが、今年は四国でインカレの予定なので、がんばって下さい。あなた方も決して初心者ではないのですから問題は、いろいろもまれるチャンスだと思います。県下か市で市民として出られる試合、講習会、研修の場などもあると思いますし、時おり教えてもらえる機会もあるはずなので、一度、県協会と相談してみてはいかがですか。

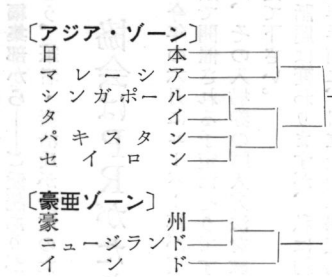
原爆の丘にママさんクラブ

原爆の丘にママさんバドミントンの〝平和クラブ〟が誕生しましたので、お知らせします。

国体経験者三人をまじえ、部員十二、三人で近くの体育館を借り、週に二、三回、2時間あまり汗を流し、楽しいひとときをすごしております。三十歳以上の大会があれば、いつでも参加しようと、はりきって待っています。

どうぞよろしく（長崎市平野町16—10、江原美智子）

編集部から——本誌でも何度かママさんバドミントンのことを誌面に掲載しました。東京、名古屋、大阪などの大都市ばかりでなく、全国のあちこちで、同じようなグループ活動がさかんになっていますので、近い将来に、全国的組織にまで発展できそうです。ついては、ぜひ一度、活動の実態を、くわしく編集部あて、お寄せ下さいませんか、写真もあれば大変、好都合です。こちらこそよろしく。



IBF（国際バドミントン連盟）は、このほど72—73年の男子世界選手権トマス杯のアジア・オーストラリア両ゾーンの予選組み合わせを発表した。

日本はアジア東地区にはいりマレーシアと対戦、これに勝てばアジア・ゾーン決勝に進出することになる。

各ゾーンの1回戦は72年10月31日まで、ゾーン決勝は73年2月28日までに行なうことになっている。（東京新聞）

日本協会川端理事長の話　マレーシアは強敵だが、これまでの成績からしても、日本が十分に勝ちうる相手だ。ナショナルチームも発足したし、トマ杯でも王座をとるいきごみで、がんばりたい。

インドネシアが代表権
ユ杯アジアゾーン、タイ棄権

インドネシア・バドミントン協会のスダーマン会長はユ杯のアジア代表にインドネシアが決まったと、次のように発表。

「タイ・バドミントン連盟からの電報によると、タイは選手が病気となったため、ユーバー杯女子世界選手権のアジア・ゾーンで、インドネシアとの決勝戦に出場しないことを決めた。このため、インドネシアが自動的にアジア代表の座を得た」

なお、このニュースを伝えたAP電によると、インドネシアの主力選手ミナルニは、近く出産が予定されているという。

（読売新聞から）

タンアイクハン
決勝で敗れる

◇西独国際バドミントン選手権大会（ウベールハウゼン）

▽男子シングルス決勝

S・ヨハンソン（スウェーデン）
3
15—1
5—7
14—18
1
タンアイク・ハン（マレーシア）

▽女子シングルス決勝

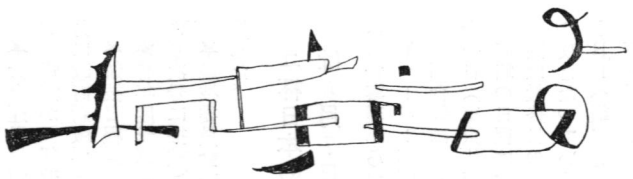
E・ツェドベリ（スウェーデン）
2
11—6
11—4
0
I・ゲルラッカ（西独）

昭和46年度日本バドミントン協会検定合格用具

シャトルの部	会社名	銘柄名	小売価格（1打）
(水鳥)	有限会社西村スポーツ	バード・デラックス	¥ 2,000
		バード・トップ	¥ 1,850
	日本バドミントンインダストリ株式会社	CM・ホワイト・ウィン	¥ 1,500
		CM・シルバーブルー	¥ 1,300
		CM・ゴールドブルー	¥ 1,200
	有限会社ジャワ商会	ファスト・シルバー	¥ 1,550
		ファスト・ゴールド	¥ 1,700
	株式会社諸江製作所	サンバタ・キング	¥ 1,850
		サンバタ・クィーン	¥ 1,650
		サンバタ	¥ 1,650
	羽立工業株式会社	水鳥羽立検定合格球	¥ 2,000
	株式会社ヨネヤマラケット	トーナメント	¥ 1,800
		トーナメント・デラックス	¥ 2,100
	株式会社三和	サンワ印ハイレッド	¥ 1,500
	大阪合繊株式会社	O.G.S	¥ 1,650
	株式会社トヨダ・スポーツ	トヨダ・トーナメント・ブラック	¥ 1,700
		トヨダ・トーナメント・ブルー	¥ 1,850
(陸鳥)	羽立工業株式会社	陸鳥羽立検定合格球	¥ 1,140
	株式会社諸江製作所	サンバタ・スター	¥ 1,000
		サンバタ	¥ 1,000
	株式会社ヨネヤマラケット	トレーニング検定球	¥ 1,000
ネットの部	松本製網株式会社	倉敷ビニロン	¥ 1,800
	株式会社寺西喜商店	バドミントンネット検定ビニロンKT518	¥ 2,200
	鐘屋産業株式会社	ナイロンA	¥ 3,000
		ビニロンB	¥ 2,500
	株式会社ジィティヤング	702112	¥ 2,700
		703115	¥ 2,200
		703015	¥ 2,000
	ミセキネット製作所	№50VA	¥ 2,600
		№52 A	¥ 2,000

審査合格用具

シャトルの部	会社名	銘柄名	小売価格
	株式会社メトロ	インターナショナル・トーナメントモデル	¥ 2,400
	羽立工業株式会社	カレッヂ	¥ 1,800
		ハタチ・チェンジャー	
		ハタチ・ハイコック	



昭和四十七年度の日本協会定時総会は、一月二十三日午後二時から東京・神田の山の上ホテルで、理事会に続いて行なわれた。この総会は役員任期（二年）の中間に当たるため改選人事はなく、4月1日にはじまる新年度の予算、一般会計一千百九十九万四千円、特別会計三百四万円を審議、承認したほか、競技日程原案を了承、アマ規定にもとずく資格審査委員会の規定と細則を決めた。また、指導委員会の新事業として、公認指導員の養成講習会を実施することを承認した。会員登録規定の一部改正も行なわれ、登録料の値上げが可決された。このほか、中国問題については、常務理事会に今後の進め方が一任された。この問題については次号で別途、お知らせする。おもな事項はつぎのとおり。

総会

公認指導員講習会承認

四月東京で、全国代表集め

社会体育の普及へ前進

バドミントン競技の普及発展施策の一環として、日本協会は公認指導員の養成に乗り出すことになり、その第一回の講習会が四月二十八日から三十日まで二泊三日の予定で開かれる。

バドミントンは大衆的要素が強く、愛好者も多いが、愛好者を正しく組織化し、正しく指導していくためには、教える人の確保が大切。そこで協会は、現に体育館等でグループを教え、あるいは近い将来、教える立ち場にある人たちに、競技ばかりでなく、広い意味での体育・スポーツの現状を認識してもらい、グループ育成の効果的リーダーシップをとってもらえるよう講習会を考えた。

会場は東京・代々木の青少年センター（もと五輪選手村）、日本協会指導委員会のメンバーのほか、特別に依嘱する講師も講座を受け持つ。

参加者は〝社会体育〟の見地から「各都道府県バドミントン協会長の推薦を受けたもの」で①各都道府県教育委、地方教委の社会体育担当職員②各都道府県でバドミントンの指導的立ち場にあるもの③各都道府県、市町村の体育館職員、事業所の体育関係の主任――のいずれかで三名以内が原則。普通急行往復分の旅費半額を日本協会が負担する。

講習会終了者は日本協会公認指導員三級の資格（公認料八百円）が与えられ、指導員手帳・指導員章が交付される。また日本体育協会が主催するトレーナー講習会やスポーツ指導員講習会に推薦される。

現場ではバドミントン教室を開催し、その指導にあたり、あるいはグループ組織化のリーダーとなることができるほか、各種外部団体からの要請や相談にも応ずることができる。

講習会では実技の実習、指導法、競技規則解説などのほか①体力ずくりトレーニング②受講者自身の体力測定③救急看護法④施設の整備と活用⑤グループの育成法や教室の開設運営などの研究⑥内外のスポーツ・体育事情と講題――等が用意されている。

また、ユ杯選手をかこむ懇談会、テーマごとの研究分科会もあり、最後をテスト（またはレポート）で締めくくる。

このプランを起案した指導委員会では、今後、制度化していくことを考えており、新年度予算には八十万円が計上された。沖縄をふくめ、全国都道府県から三人が参加すれば、第一回で百四十一人の公認指導員が誕生する運びとなる。

登録料は値上げ

一般学生二百円、高校百円

〔その他主な決定事項〕

★会員登録料値上げ、諸物価高騰のため、日本協会への会員登録料は①一般および学生は二百円②高校生は百円と倍額アップされた。中学生は登録のみで登録料は従来どおり無料。

これにともない、会員登録規定が一部改訂された。47年度から実施する。

★六月に東京で開かれるユーバー杯女子世界選手権の各都道府県分担金は二万五千円とする。実連、学連、教職員連の三連盟の分については別に定める。

★アマ規定関係、審査委規定同細則が承認された。アマ規定は第16条を不用（他の条項と重複）と判断して削除、後の条を順次くりあげる。

★未定だった実業団連盟からの理事に池田芳麻氏（大阪電電）が決定、承認された。

★大会運営規定およびランキング規定が一部改正された。四月に改訂新版が刊行される。

★競技日程（別記）

★47年度予算（紙面の都合により次号に掲載）

★競技委員会委員を若干名増員した。

ユ杯日本の第1戦は6月7日

〔報告事項から〕

★ユーバー杯開催の会期は会場の都合等により六月六日から十一日（東京体育館）とした。

概略の日程は次のとおりで、時間は最終日のみ午後、その他は夜となっている。この日程はIBFへ報告された。

▽6月6日（火）開会式、ついでアジア・ゾーン対アメリカゾーン▽7日（水）日本対ヨーロッパ・ゾーン▽8日（木）豪亜ゾーン対6日の試合の勝者▽11日（日）決勝、7日の勝者対8日の勝者

（注）9日、10日は休み

中学生大会は名古屋に変更

競技日程は原案どおり了承された。学生選手権については中四国学連の担当で松山市で開く予定だが詳細未定。また、中学生大会は東京開催案で承認されたが、その後、東京都協会から開催不能の申し入れがあり、常務理事会を経て名古屋市開催に変更が決まった。

47年度各大会要項

〔**第2回全国中学生大会**〕▽主催＝日本協会、全国中学校体育連盟▽後援＝愛知県、同県教育委、体育協会・中小学校体育連盟、名古屋市、同市教育委・体育協会▽主管＝愛知県協会▽期日＝8月18日（開会式）―8月20日（正午終了）▽会場＝名古屋市愛知県体育館▽競技種目＝都道府県対抗の団体戦（男女）▽出場数＝各都道府県男女各1チーム、開催地のみ男女各4チーム▽競技方法＝トーナメント。三決は行なわない。各対抗は1複2単。同一選手が単複兼ねることは不可▽団体編成＝監督1、マネジャー1、選手4名以上6名まで（同一校生徒に限らない）事故による選手変更は代表者会議開始以前に大会事務局に申し出ること▽使用用具＝47年度日本協会検定合格シャトル及びネット▽参加資格（略）▽申込＝所定の用紙で3部作成のこと。各都道府県協会を通じ、2部書留で送付のこと、1部は各都道府県協会が保管。▽締切＝47年6月30日必着▽参加費＝無料（各都道府県協会からの分担金については別途連絡する）▽申込場所＝名古屋市北区名城町1ノ1愛知県スポーツ会館内、全国中学生バドミントン大会実行委員会事務局▽代表者会議＝8月18日午前9時、愛知県スポーツ会館▽その他 ①競技中の疾病、傷害についての責任は主催者側とする。②参加生徒の安全証明書、保険証はかならず持参のこと（傷害保険利用予定）③監督、マネジャーのうち1名は中学校教師として、生徒指導の万全を期すること。④組合せについては主催者側に一任すること。⑤開会式、試合時の服装は上下とも白一色とし、左脇に都道府県名を示すマーク（タテ6センチ、ヨコ12センチ）を必着のこと。⑥本大会の参加監督、マネジャー、選手については旅費・宿泊費の一部を補助する。監督、マネジャーは忘れず印鑑を持参すること。

〔**第15回全日本社会人選手権**〕▽主催＝日本協会▽共催＝三重県教育委員会、四日市市教育委員会▽後援＝三重県体育協会、四日市市体育協会▽主管＝三重県協会▽会場＝四日市市大字日永、四日市体育館＝▽期日＝5月3日―5日▽種別＝男子一般、女子一般、男子30歳以上、同40歳以上、同50歳以上（以上、単複）混合▽参加制限＝日本協会競技委員会決定の各都道府県割当数とする（前年度ランキング選手は別格）▽申込＝所定用紙3通に都道府県協会で一括記入の上、会長印を押し提出のこと。正は日本協会あて、副は三重県松阪市垣鼻町、県立松阪高等学校内、第15回全日本社会人バドミントン選手権大会事務局あて

〔**第11回全日本教職員選手権**〕▽主催＝日本協会、日本教職員連盟、秋田県教育委員会、秋田市教育委員会▽主管＝秋田県協会、秋田県教職員連盟▽後援＝文部省、日本学校体育研究連合会、秋田県、秋田市▽期日＝8月9日（8時開会式）―12日（15時閉会式）▽会場＝秋田市県立体育館▽大会事務局＝秋田市手形学園町一ノ一、秋田大学教育学部戸田研究室内、第十一回全日本教職員バドミントン選手権大会事務局、電0188・33・5261▽その他要項前年どおり

〔**全国高校総体・第23回全国高校選手権大会**〕▽主催＝全国高校体育連盟、日本協会、山形県、同教育委、新庄市、同教育委▽主管＝全国高校体育連盟、山形県高校体育連盟、山形県協会、新庄市協会▽後援＝文部省、日本体育協会、山形県体育協会、新庄市体育協会、NHK▽会場＝新庄市体育館、新庄工高・新庄南高・新庄農高・新庄中各体育館▽期日＝8月1日15時（総合開会式＝山形市）2日15時（開会式＝新庄市体育館）競技2日―6日▽大会事務局＝山形県新庄市大手町1ノ57（〒996）新庄市中央公民館内、昭和47年度全国高校総体新庄市実行委員会事務局 電02332・2・7029▽その他＝注意を要する参加資格 各都道府県協会の加盟者で47年6月30日までに日本協会に選手登録を完了したものであること。また都道府県高校体育連盟会長がとくにやむを得ないと認めた場合を除き、転校後六カ月未満のものは参加を認めない。

〔**第22回全日本実業団選手権大会**〕▽主催＝日本協会。日本実業団連盟▽後援＝労働省▽主管＝千葉県協会▽会場＝千葉県茂原市県立茂原高体育館、同長生高体育館▽期日＝9月12日―17日（12日は連盟理事会、総会および開会式）

〔昭和**47**年度全日本総合選手権大会〕▽期日＝12月5日（19時開会式）―10日▽会場＝6日―8日未定、9日―10日国立代々木第二体育館の予定。

中学は合成，高校は水鳥が多い

……使用シャトル……用具委アンケートから……

ラケットは1人2本が公約数……

日本協会の用具委員会は、バドミントンの各種用具が、どのように使われているか、その実態を調べ、さらに〝安くて良い品〟の普及の資料とするため、46年夏、中学、高校生にアンケートを求めた。

回答を求められたのは第一回の全国中学生大会と、全国高校総体の出場選手。シャトル、ラケット、ネット、ウェア、シューズについて、どんな品をどう使っているかを質問した。

バドミントン世界の悪い通例？で回答率は、予想どおりの低調さ。高校では六百人中百七人、17・7％（中学は不明）だった。このため、簡単に断定的結論を出すほどの資料とはならなかったものの、その大要をまとめると次のようなことであった。

①使用シャトルは、中学では約半数が合成、高校では大部分が水鳥製

②ラケットは多くの人が2本以上持っている。ガット張りは高校男子はほとんど自分でやるが、中学生は三人に二人以上が他人のごやっかいになる

③ネットはほとんどの学校で検定合格品を使っている。

④ウェア、シューズも高校では推奨品使用が圧倒的だが中学では、まだそれほど推奨品が受け入れられていない。

◆シャトル

第一のシャトルコックについては、中学では全体の4割以上が合成シャトルを使っていることがわかった。

17都府県男女1291人のうち合成使用者が56人、水鳥と陸鳥の使用者合計59人とほぼ等しい。もちろん、これは県、学校によって事情が異なるので、いちがいにはいえないにしろ、中学では、一個当たりの価格は高いが、長持ちすること、中学段階では、技術上、バランスの微妙な水鳥を使わなくてもすむこと、水鳥球の出まかりが品薄であること、などが理由として考えられる。

また、傾向的には関東から裏日本方面では合成、中部から関西にかけては陸鳥の使用度が高いと推定される。

しかし、技術的に基礎が固まり、高度なレベルをめざす高校段階になると、話が変わる。水鳥シャトルを使うのが当たり前であり、陸鳥、合成ものは急にカゲをひそめたかたち。

ついでに説明すれば「シャトル一個がどのくらいの時間、使用に耐えるか」の設問には、中学では①水鳥は30分―1時間②陸鳥は20分―1時間③合成は1時間以上――となっている。また、ほとんどが水鳥の高校では20分ていど、という答えが圧倒的。なかには全員がそろって10分以内（金沢市工、川口女高など）というのもあった。

もっとも、これも使う人の技術レベルと使用密度や、値段の高い品かどうか等によっても異なるから、結論を下すほどの資料とはいえない。

ただ、中学より高校の場合、使用に耐える時間が短いのは、より力があり、練習も激しいせいと考えてさしつかえないだろう。（次ページの別表中、Aは水鳥、Bは陸鳥、Cは合成。使用球が重複している場合もあるので、アンケート回答人数とは必ずしも合計が一致しない）

◆ラケット

ラケットについては、まず、何本持っているか質問した。別表で見るとおり、一人平均2本というのが最大公約数である。

持っているラケットの値段

価格	本数
～1,000	4
～1,200	4
～1,400	7
～1,600	16
～1,800	3
～2,000	14
～2,200	2
～2,400	4
～2,600	16
～2,800	3
～3,000	13
～3,200	3
～3,400	1
～3,600	30
～3,800	1
～4,000	12
それ以上	7

（注）中学のみ

ラケットは何本持っているか

高	中	
20	52	1本
55	60	2本
32	9	3本
1	4	4本
	2	5本
	1	6本
1		7本

ガットはだれが張るか

高	中	
61	34	自分
32	37	先生
12	47	店
	11	その他

ただし、中学では、1本組と2本組があい半ばしているのに反し、高校勢では3本組もかなり目立っている。

ラケットは何本必要と決められるものではないが、練習の最中や試合で、破損したりガットが切れたりというケースを考えれば、2本はほしいところ。ただし、これも品質とフトコロ具合との相談になるわけだ。

そこで、持っているラケットの値段だが、これは中学生だけに対して行なわれた質問。

別表をさらに大まかに分類してみると、二千円までの品が48、三千円までが38本、それ以上が54本となり、中学生でも、割りにいいものを使っていることがわかる。

別表の一番下の欄にある「それ以上」の中には、五千円、六千円、七千円が各1本はいっていた。

では、ガットが切れたとき、選手たちは自分で張り替えできるのだろうか。

推奨品、中学へは未侵透

中学生では、ほかの人にやってもらう場合が圧倒的で「自分で張る」と答えたのは三人に一人もいない（2割6分余）。選手たるもの、ガットぐらい自分で張るよう努力しよう。

高校になると、逆に「自分でやる」のがぐっと多くなる。ただし、男女別でいうと、男子では、答えた70人中、金沢市工の選手を除き、全員が「自分」だが、女子では37人中「自分」はかずか7人（真岡、鶴鳴女）。女子は男子にくらべ、推察するに甘やかされているようだ。

◆検定推奨品

このほか、ネットについては日本協会が検定、ウェア、シューズについては同じく推奨品を決めているが、実際には、どんな風に使われているだろうか。

まずネット。検定合格品かどうかの質問には、高校では千葉京葉の生徒が「不明」（知らない）と答えた以外、全校で検定合格品を使っていることがわかった。ただし、中学でのアンケートによれば「イエス」が114人に対し「ノー」が6（ほかに不明8）があった。

二番目のウェア。高校では一校を除き、すべて推奨品を使っているが、中学では「イエス」が上着について57、下着について69に対し「いいえ」は上着72下着70と、ともに推奨品の侵透度が低い。

シューズについても、高校では97―9で推奨品の使用が圧倒的だが、中学では推奨品が72、それ以外52だった。

中学段階は中央、地方を問わず、組織化、有機的活動が立ち遅れている現実が、このへんの事情にもうかがわれる。



シャトル使用状況

〔中　学　校〕

県	男	女	A	B	C	AB	AC	ABC
宮　城	1	0	1					
群　馬	3	5			8			
茨　城	6	4	4	1	5			
埼　玉	6	5	3		8			
東　京	3	6			9			
富　山	4	6			10			
福　井	4	6			10			
愛　知	0	5	5					
岐　阜	5	5	6				4	
三　重	5	4		9				
奈　良	5	5	1	9				
京　都	6	3		9				
兵　庫	5	5		10				
岡　山	3	3	1		5			
鳥　取	0	1			1			
香　川	5	0						5
高　知	0	5					5	
計	61	68	21	38	56	5	4	5

〔高　　校〕

学　　校	数	A	B	C
北　海・北海道	1	1	1	
日大山形・山　形	10	10		
木更津・千　葉	7	7		
京　葉・千　葉	2	2		
吉田商・新　潟	8	8		
三条商・新　潟	1		1	
金沢市工・石　川	15	15		
甲府商・山　梨	9	9		
富士宮北・静　岡	9		9	
時習館・愛　知	1	1		
星　陵・兵　庫	7	7		
男子校　計	70	60	11	0
札幌北斗・北海道	4	4	4	
真　岡・栃　木	1	1		
川口女・埼　玉	10	10		
桐朋女・東　京	7	7		
時習館・愛　知	2	2		
倉吉西・鳥　取	5	5		2
鶴鳴女・長　崎	8	8		
女子校　計	37	37	4	2
男女総計	103	97	15	2

（注）　Aは水鳥，Bは陸鳥，Cは合成シャトル

百円で事故から身を守る

スポーツ傷害保険に加入しよう

4月1日から新年度受け付け

スポーツ安全協会の傷害保険が、四月一日から二年目の契約受けつけを開始します。みなさんも、できるだけ、この保険に加入して、万一のときに備えましょう。

この保険については、昨年、一度、本誌でも紹介しましたがまだ、ご存知でなかった人、関心のなかった人もいることと思いますので、改めて概要を説明します。

バドミントンは他のスポーツにくらべ、大きいケガは少い方です。しかし、アキレス腱を切ったり、ヒザを痛めたりして、長い間、入院するとか、プレーを休まねばならぬこともあります。

個人的に別の保険にはいっているとか、健康保険で間に合うとか、という人もいるでしょうが、スポーツ傷害保険は、それらと重複してもかまわない支払いをすることになっています。

1　どういう保険か

傷害保険というものは、一般の保険会社でも従来、扱っていました。しかし、掛け金が高いなどということで、人気がありませんでした、そこで、スポーツ活動だけを全国的に対象とする制度が考え出されました。

財団法人スポーツ安全協会というものが設立され、ここが窓口となって、一括、保険契約を行ないます。

期間は一年で、保険金等はべつに説明しますが、死亡の場合以下、第一種で治療七日以上、第二種で二週間以上の傷害に保険金が支払われます。

2　対象となる人、団体

以下、バドミントン関係にしぼって話を進めます。

対象はスポーツ活動の目的や実態等で**第一種**と**第二種**（A、B、C）に分かれます。説明をわかりやすくするため、まず**第二種**から話します。これは、クラブ等で、**高度な技術、試合を目的**とするものです。つまり高校以上の学校の体育クラブ、官公庁、会社のクラブなど。

第一種は**レクリエーション的活動を目的**としたもの。一つは中学以下の各種学校で、課外活動としてスポーツを行うもの。これには学校クラブのほか、スポーツ少年団、ボーイスカウト子供会、YMCA、根っこの会、体力づくりクラブ、ママさんグループなどもはいります。

別のいい方をすると第二種は日本バドミントン協会、同地方協会、学連、実連、教職員連盟の登録者。第一種はそれ以外のバドミントン愛好者ということになります。

しかし、いずれの場合でも**個人では加入できません**。団体加入です。

具体的にいうと責任者（会長、部長、監督、主将など）を置き、団体のメンバーがはっきり把握されている。10人以上からなる団体が対象です。つまり××高校バドミントン部、××会社バドミントン同好会、というような単位で一括して申し込むわけです。

加入については次ページのスポーツ安全協会本部、支部にご連絡下さい。

3　保険金と掛け金

契約は一年間で、事故がなければ掛け捨てになります。

掛け金（保険料）は**第一種が百円**（一人一年分）**第二種**（バドミントンは第二種のC）で**一口四百四十五円**、二口はその倍額です。これは二口はいってもいいという意味です。

支払われる保険金は満額で第一種三十万円、第二種のC一口で五十万円。ケガの場合の医療保険金は一日当たり第一種が三百円、第二種のC、一口五百円です。

具体的にいうと、

①死亡（事故から百八十日以内に死んだとき）保険金満額

②重傷による後遺症――一生身体がきかなくなったとき満額、両耳がきかなくなったとき80％、一眼の失明、片足を失ったときなど60％…というようなことです。

③医師の治療を受け平常の仕事ができるようになるまで、百八十日に限り、さきにのべた医療費が払われる。

4　対象になる事故は

〈第一種の場合〉①その団体の管理下で活動中の事故（部長、監督などに指導、指揮されての練習、試合、その他一般活動中など）

②指定された集合、解散場所とあなたの住所の通常の経路往復中の事故（練習場への往復途中、交通事故にあった、など）

〈第二種〉①第一種に同じ

②第一種と同じ目的で、団体として（つまり一緒）にバスや電車などに乗っていて途中で事故などにあった場合。

以上、要するに「きょうはこれで終わり」といわれたのに、一人だけ残っていてケガしたとか、帰りに寄り道して車にハネられたとかはダメなわけです。

この制度は昨年三月から発足しバドミントンでは百四十一人が加入しただけだそうです。

練習中のケガも問題ですが、交通事故もこわいもの。なるべく加入するようにしましょう。

スポーツ安全協会本部、支部一覧

郵便番号	支部名	住所		電話番号	取引銀行
		本部			
100	本部	東京都千代田区永田町1－5－12		03(581)2751	
		支部			
060	北海道支部	札幌市北三条西6	北海道教育庁体育青少年課内	011(231)4111	北海道拓殖銀行道庁出張所
030	青森県支部	青森市新町2－4－36	青森県 〃 保健体育課内	0177(22)1111	青森銀行新町支店
020	岩手県支部	盛岡市内丸11－2 岩手県公会堂	岩手県体育協会内	0196(22)4040	岩手銀行県庁支店
980	宮城県支部	仙台市本町3－8－1	宮城県教育庁保健体育課内	0222(25)6545	七十七銀行県庁支店
010	秋田県支部	秋田市山王4－1－1	秋田県庁日本学校安全会内	0188(24)1532	秋田銀行県庁支店
990	山形県支部	山形市旅籠町3－4－5	山形県教育庁体育課内体育協会	0236(31)1111	山形相互銀行本店
960	福島県支部	福島市杉妻2－16	福島県 〃 保健体育課内	0245(22)1111	東邦銀行県庁支店
310	茨城県支部	水戸市三の丸1－5－38	茨城県 〃 〃	0292(21)8111	第一勧業銀行水戸支店
320	栃木県支部	宇都宮市塙田町504	栃木県 〃 体育課内	0286(22)5591	足利銀行県庁内支店
371	群馬県支部	前橋市大手町1－1－1	群馬県 〃 〃	0272(21)1511	群馬銀行県庁支店
336	埼玉県支部	浦和市高砂3－15－1	埼玉県 〃 〃	0488(22)8811	埼玉銀行県庁支店
280	千葉県支部	千葉市市場町2	千葉県 〃 〃	0472(23)4103	千葉銀行県庁支店
100	東京都支部	東京都千代田区丸の内3－8－1	東京都 〃 〃	03(212)5111	富士銀行銀座支店
221	神奈川県支部	横浜市神奈川区三ツ沢西町3-1 スポーツ会館内	神奈川県体育協会内	045(311)0653	横浜銀行横浜駅前支店
951	新潟県支部	新潟市一番堀通町5924	新潟県教育庁保健体育課内	0252(28)6111	第一勧業銀行新潟支店
930	富山県支部	富山市五福5区1942	富山県体育協会内	0764(31)9150	北陸銀行県庁内支店
920	石川県支部	金沢市広坂2－1－1	石川県教育庁保健体育課内	0762(61)1111	北国銀行本店
910	福井県支部	福井市大手2－9－10 県電気ビル内	福井県 〃 〃	0776(21)1111	福井銀行本店支店
400	山梨県支部	甲府市丸の内1－6－1	山梨県 〃 〃	0552(37)1111	山梨中央銀行本店支店
380	長野県支部	長野市大字南長野字福下692－2	長野県 〃 体育課内	0262(32)0111	八十二銀行県庁内支店
500	岐阜県支部	岐阜市薮田1125	岐阜県 〃 保健体育課内	0582(72)1111	十六銀行県庁支店
420	静岡県支部	静岡市追手町9－6	静岡県 〃 体育保健課内	0542(21)3177-8	静岡銀行県庁支店
460	愛知県支部	名古屋市中区三の丸2－3－4	愛知県スポーツ会館内	052(941)6166	東海銀行本店
514	三重県支部	津市広明町13	三重県教育庁体育保健課内	05928(8)1111	百五銀行県庁支店
520	滋賀県支部	大津市東町3－6－25	滋賀県 〃 保健体育課内	0775(24)1121	滋賀銀行県庁前支店
602	京都府支部	京都市上京区西洞院通下立寺上ル西大路町	京都府 〃 〃	075(441)8412	京都銀行府庁前支店(一般保険本店)
540	大阪府支部	大阪市東区大手前之町	大阪府 〃 〃 分室内	06(941)0351	大和銀行大手前支店 三和
650	兵庫県支部	神戸市生田区下山手通5	兵庫県 〃 体育課内	078(341)4706	神戸銀行山手支店
630	奈良県支部	奈良市登大路町	奈良県 〃 保健体育課内	0742(22)1101	南都銀行本店
640	和歌山県支部	和歌山市小松原通り1－1	和歌山県 〃 〃	0734(31)1080	第一勧業銀行和歌山支店
680	鳥取県支部	鳥取市東町1－220	鳥取県 〃 体育保健課内	0857(22)7111	山陰合同銀行鳥取県庁支店
690	島根県支部	松江市殿町1	島根県 〃 保健体育課内	0852(22)5484	山陰合同銀行県庁支店
700	岡山県支部	岡山市内山下2－4－6	岡山県 〃 〃	0862(24)2111	中国銀行県庁支店
730	広島県支部	広島市基町10－52	広島県 〃 〃	0822(28)2111	広島銀行県庁支店
753	山口県支部	山口市大字後河原字松柄150－1	山口県 〃 〃	08392(2)6582	第一勧業銀行山口支店
770	徳島県支部	徳島市万代町1	徳島県 〃 体育保健課内	0886(22)1111	徳島相互銀行本店
760	香川県支部	高松市番町4－1	香川県 〃 保健体育課内	0878(31)1111	百十四銀行本店
790	愛媛県支部	松山市一番町4	愛媛県 〃 〃	0899(43)0391	伊予銀行県庁支店 愛媛相互銀行
780	高知県支部	高知市丸の内5	高知県 〃 体育保健課内	0888(23)1111	高知相互銀行本町支店
810	福岡県支部	福岡市西中洲6街区29	福岡県 〃 体育課内	092(77)3944	福岡銀行県庁内支店
840	佐賀県支部	佐賀市城内1－1	佐賀県 〃 体育保健課内	09522(4)2111	佐賀銀行本店
850	長崎県支部	長崎市江戸町2－13	長崎県 〃 〃	0958(26)2412	親和銀行長崎支店県庁窓口十八銀行
860	熊本県支部	熊本市水前寺6－18－1	熊本県 〃 〃	0963(66)1111	肥後銀行県庁支店
870	大分県支部	大分市大手町3－1－1	大分県 〃 〃	09752(6)1111	大分銀行
880	宮崎県支部	宮崎市橘通東2－10－1	宮崎県 〃 保健体育課内	0985(24)1111	宮崎銀行県庁支店
892	鹿児島県支部	鹿児島市山下通町14－50	鹿児島県 〃 体育保健課内	0992(23)6356	鹿児島銀行本店

デンマーク戦プロさしあげます

本号に特集したデンマーク対日本の女子国際大会のプログラムを差しあげます。金髪のヒロインたちの美しい写真や略歴、デンマークとそのバドミントン事情から、さては日本選手の紹介にもニックネームやエピソードがはいって、スターの存在を身近かに感じさせるもの。コンパクトな内容ながら楽しめるものです。スタンドやテレビで観戦できなかった方はどうぞ。

郵送料として切手50円分をお送り下さい。部数に限りがありますので、品切れの節は、あしからずご承知下さい。

なお、全日本総合のプログラムは、希望者がさっとう、なくなりました。

愛読者の寄稿お待ちします

読者の皆さん方の寄稿をお待ちしております。この小誌を充実させていくには、ぜひとも、広く皆さんのご協力が必要です。身近かにおこったこと、見たこと聞いたこと、どんな小さなニュースやエピソードでもけっこうです。写真、カットなども大歓迎いたします。

一般読者の方々ばかりでなく**とくに教職員連盟、実業団連盟関係の役員、プレーヤー各位の寄稿**を盛んにしていきたいと思います。もちろん、批判、意見、本誌に掲載した技術講座などへの疑問、意見等もけっこうです。ご遠慮なく、この小誌を活用して下さい。

次号予告

次号は3・4月合併号。例によって、春の海外遠征に出た選手たちの活躍ぶりの速報。まず一発。グラフはデンマーク戦のあとに行なわれたチャンピオンズ・トーナメントから。その他企画として〝スポーツマンの心〟特集を考えています。

編集室

○…特集らしい特集を組んだため、いろいろ、のせなければならない記事がハミ出してしまった。技術講座、ばどみんとん昔むかし、それに日本協会総会関係でも二つ三つ。いずれも次号に必ず掲載させていただくことを約束しておきます。

ところで、忘れてならないのはト杯。本号の片スミで紹介したように、日本は強敵マレーシアと当たる。このおりに、日本男子で初めてナショナル・チームが結成されたのはヒット。励ましてやりたい。

○…巻末にのせた〝スポーツ傷害保険〟これをとりしきる財団法人・スポーツ安全協会によると、昨年一年間で、第一種（レクリエーション的活動）で九一九件、七百二十二万三千円、第二種のC（バドミントンをふくむ軽い競技スポーツ）で四〇件、百十二万二千円の傷害による保険金支払いがあった。行き帰りに交通事故で死んだ人もいる。お互い気をつけよう。

お断わり　本号の表紙はデンマーク選手なので、とくに〈表紙〉説明は省略いたします。ご了承下さい。

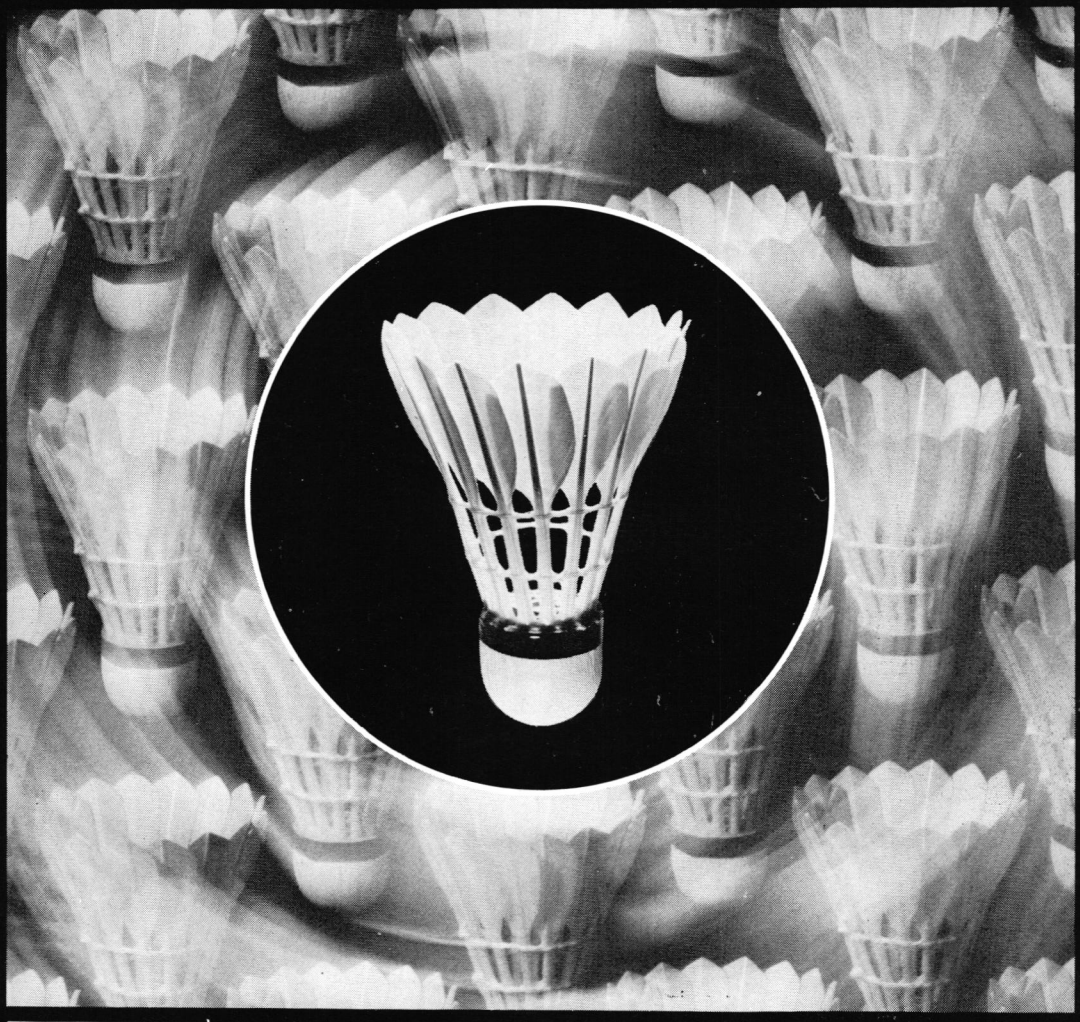
【バドミントン界】第30号
昭和47年1月25日　印刷
昭和47年2月1日　発行
編集兼発行人　川　端　昇　市
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一
岸記念体育館内
日本バドミントン協会
電話　四六八・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二一二九
明宏印刷株式会社
定価　一部　百三十円



✳“本物のよさ”が人気の的(まと)です。

エリート デラックス

《日本バドミントン協会検定合格球》



エリート・シリーズ

❖エリート デラックス
〈検定合格球〉 ￥ 2,300

❖エリート トップ
〈検定合格球〉 ￥ 1,950

❖エリート エース
〈試合球〉 ￥ 1,800

❖エリート ストロング
〈練習球〉 ￥ 1,450

❖エリート スペシャル
〈練習球〉 ￥ 1,150

K TOKYO

河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 TEL831-0453・1884

月刊「バドミントン界」第30号
昭和四十七年二月一日発行（毎月一回一日発行）
昭和四十四年十二月二十三日 第三種郵便物認可
発行所 東京都渋谷区神南一ノ一ノ一 岸記念体育会館内 日本バドミントン協会
定価百三十円

